

福島県の医療機関における

令和6年度

看護力向上支援事業報告書

目次

第1章 事業の概要	
1 事業の経緯	2
2 事業の目的	2
第2章 事業の実際	
1 ニーズの調査	6
2 事業参加施設、分野、認定看護師(所属施設)	6
3 方策検討会の開催	7
4 活動の実施	
1)介護老人保健施設敬愛シニアガーデン卸町	8
2)公立小野町地方総合病院	12
3)日東病院	16
4)飯塚病院	20
5)土屋病院	24
6)池田記念病院	28
7)三春町立三春病院	32
8)清水病院	36
9)村上病院	40
10)磐梯町介護老人保健施設りんどう	44
11)大町病院	48
12)国立病院機構いわき病院	52
13)介護老人保健施設サンライフゆもと	56
5 報告会の開催	60
6 事業評価について	62
1)受講者の事業評価アンケート結果	62
2)認定看護師の事業評価アンケート結果	64
7 フォローアップ研修	67
1)フォローアップ研修の概要	67
2)令和6年度医療機関における看護力向上支援事業 フォローアップ研修の実施	68
3)フォローアップ研修実施施設のアンケート結果	68
4)認定看護師のアンケート結果	69
8 事業の変遷と実績	70
9 まとめ	74

第 1 章

事業の概要

1 事業の経緯

東日本大震災、原子力発電所事故から1年4か月が経過した平成24年7月に、公益社団法人日本看護協会は、甚大な被害を受けた相双地区にある医療機関を対象に、今後の地域医療の充実を見据え、単なる看護職確保支援ではなく看護の質の向上に繋がるような支援方法を検討する必要があると考え、感染管理認定看護師の派遣事業「看護の質向上プロジェクト」を企画し平成25年3月まで実施した。

この事業を継続・実践するために、公益社団法人福島県看護協会は、平成25年7月より福島県から「医療機関における看護力向上支援事業」を受託し、事業を開始した。当初、相双地区の医療機関を対象とした支援から現在は、福島県全域の病床数20床以上200床未満の医療機関、介護老人保健施設、病床数不問で単科の精神科病院を対象に拡大された。医療機関等の要請に応じた認定看護師を派遣し、定期的な研修等を実施し、看護実践能力を高めるための活動を行っている。平成29年度からは、事業に参加した翌年度にフォローアップ研修が開始となり、認定看護師からの看護技術と知識を継続して学ぶ機会づくりとなっている。

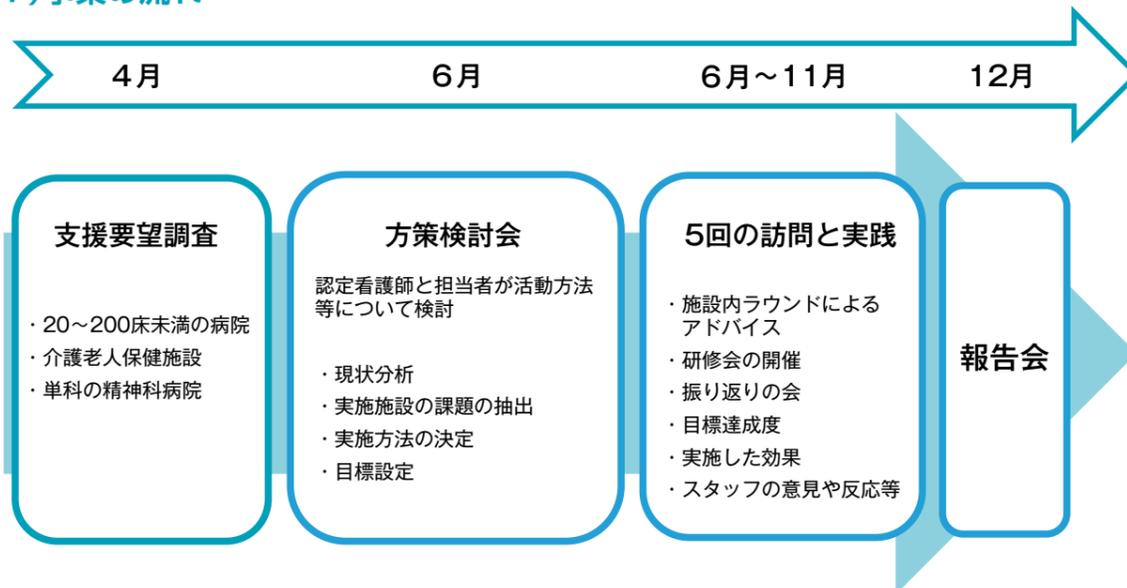
令和4年度からは「医療機関等における看護力向上・感染管理専門人材派遣事業」「浜通り専門看護人材派遣事業」と事業が拡大され、より多くの医療機関等において事業が実施できるようになった。

平成25年度から令和6年度まで事業に参加した医療機関等は、延べ102件となり、12分野の領域において支援している。

2 事業の目的

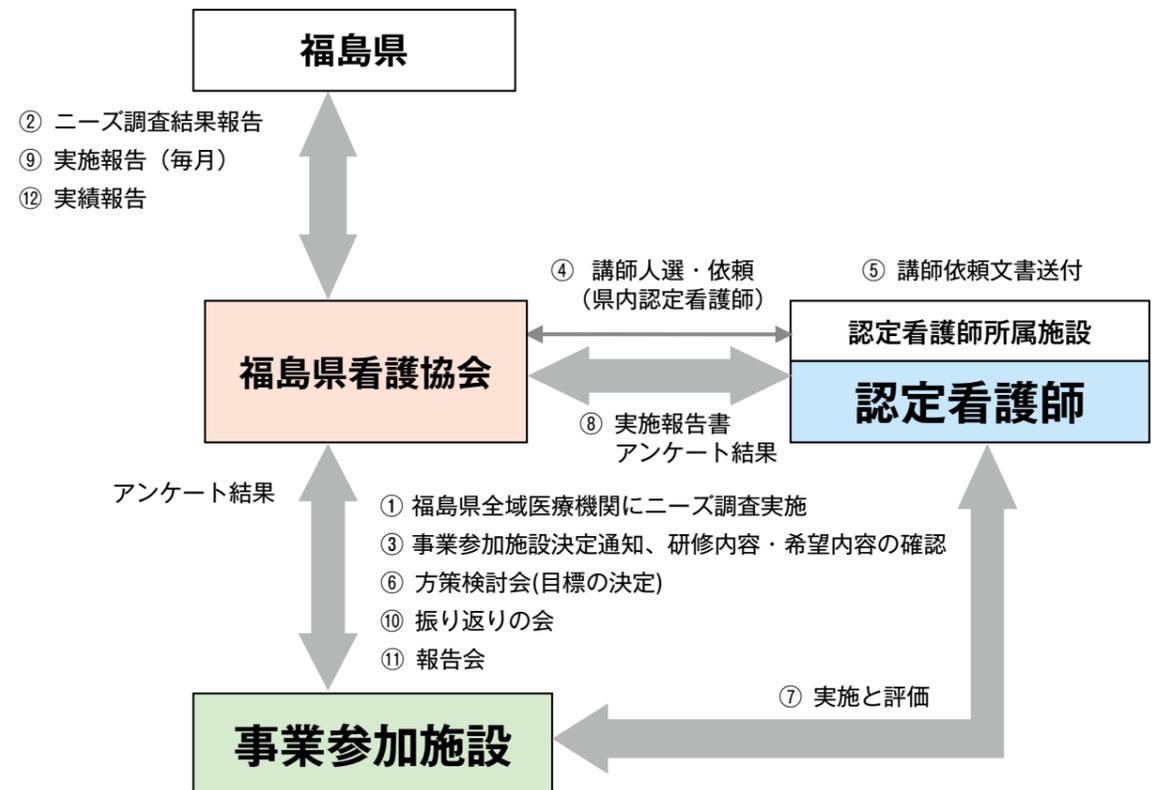
医療機関等のニーズに応じた各分野の認定看護師を派遣し定期的に研修を行うことにより、知識と技術を深めて看護実践能力を高めることができる。

1)事業の流れ



2)事業の全体像

【事業の流れ】



- ① 福島県全域医療機関等に支援要望調査を実施
- ② ニーズ調査結果から看護協会と県の担当者と協議
- ③ 事業参加医療機関等への決定通知と研修内容・希望内容の確認 (医療機関の現状と問題点、学びたい内容等)
- ④ 看護協会が希望分野の認定看護師を選定し、依頼決定
- ⑤ 看護協会から講師依頼文書送付 (認定看護師に対象医療機関等の希望内容等について事前通知)
- ⑥ 方策検討会
 - 事業の流れの確認と日程調整
 - 目標の設定や研修会(毎回30分程度)の内容を相談
- ⑦ 認定看護師の活動開始(6月から11月迄、1回3~4時間の支援を5回)と評価(毎回)
- ⑧ 認定看護師は、活動内容を看護協会に報告 (受講者アンケート結果は、看護協会から事業参加医療機関等と認定看護師に報告)
- ⑨ 看護協会は、毎月の実施報告書等を県に提出、協会内回覧
- ⑩ 最終の活動日に、看護協会職員が事業参加医療機関等を訪問し、振り返りの会を実施
- ⑪ 事業参加医療機関等と認定看護師は、成果と課題などについて報告
- ⑫ 看護協会は、県に実績報告

※本事業においては、日本看護協会が定める「認定看護師」と、日本精神科看護協会が定める「精神科認定看護師」について、一律「認定看護師」の名称を使用いたします。

第 2 章

事業の実際

1 ニーズの調査

4月に、福島県内の病床数20～200床未満(精神科単科含む)、200床以上の単科の精神科病院を併せて98医療機関と、介護老人保健施設86か所に事業参加要望調査を実施した。希望があった医療機関等と領域の中から、事業参加対象施設と担当の認定看護師を決定した。今年度は、「皮膚・排泄ケア」「感染管理」「精神科看護^{※1}」の分野の希望が多かった。新しい分野で希望のあった「脳卒中リハビリテーション看護」「精神科看護」については、認定看護師の協力を得て支援の運びとなった。

※1 本事業においては、日本看護協会が定める21分野の「認定看護師」と、日本精神科看護協会が定める「精神科認定看護師」について、一律「認定看護師」の名称を使用する。

2 事業参加施設、分野、認定看護師(所属施設)

コンサルテーションの希望があった皮膚・排泄ケア、感染管理、認知症看護、脳卒中リハビリテーション看護、透析看護、精神科看護の6分野について、13医療機関等において実施した。

	事業参加施設	コンサルテーションを希望する分野	担当の認定看護師	
看護力向上・感染管理強化のための専門人材派遣事業	1 介護老人保健施設敬愛シニアガーデン卸町	皮膚・排泄ケア	森 由美	公立藤田総合病院
	2 公立小野町地方総合病院	皮膚・排泄ケア	齋藤 敦己	星総合病院
	3 日東病院	感染管理	柳沼 順子	寿泉堂総合病院
	4 飯塚病院	感染管理	小野寺健士	会津医療センター附属病院
	5 土屋病院	認知症看護	大河原靖子	星総合病院
	6 池田記念病院	認知症看護	小室 真紀	白河厚生総合病院
	7 三春町立三春病院	脳卒中リハビリテーション看護	阿部 悠	あづま脳神経外科病院
	8 清水病院	精神科看護	湯田 文彦	医療法人昨雲会 地域ケア事業部兼飯塚病院
	9 村上病院	精神科看護	横山 大輔	長橋病院
	10 磐梯町介護老人保健施設りんどう	精神科看護	岩淵いずみ	会津西病院
浜通り専門人材派遣事業	11 大町病院	透析看護	小山 延之	常磐病院
	12 国立病院機構いわき病院	感染管理	加賀 陽子	福島労災病院
	13 介護老人保健施設サンライフゆもと	皮膚・排泄ケア	高萩由美子	いわき市医療センター

3 方策検討会の開催

日時：令和6年6月3日(月) 場所：福島県看護会館 みらいホール

福島県医療人材対策室1名、認定看護師13名、事業参加医療機関等の責任者や担当者27名、会長、常務理事、教育・事業課担当者2名の計45名で実施した。

内容

- 事業に参加する医療機関等の担当者と認定看護師に対して、本事業の流れや具体的な活動内容(施設内での指導・助言、研修会や演習等の実施)について説明した。
- 今年度初めて事業に参加する医療機関等や認定看護師も多数おり、令和5年度の看護力向上支援事業で活動を経験した白河厚生総合病院の小室真紀 認知症看護認定看護師より、活動に関するポイントや事例について報告いただいた。
- 事業に参加する医療機関等の担当者と認定看護師で情報の共有をしながら、現状の分析や課題等の洗い出しを行い、活動期間中に達成したい目標を立案し、研修会等の内容などについて検討した。



4 活動の実際

1)介護老人保健施設敬愛シニアガーデン卸町

施設名	介護老人保健施設 敬愛シニアガーデン卸町	実施分野	皮膚・排泄ケア
認定看護師	森 由美	所属施設	公立藤田総合病院

目 標

- ・高齢者の脆弱な皮膚を理解し、個別性のあるケアを提供できる

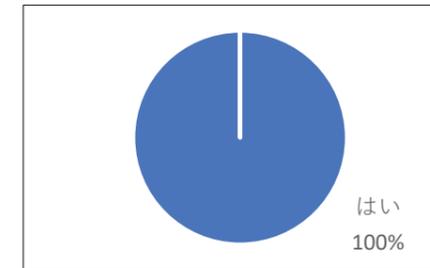
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/2	・研修会 ・打ち合わせ (日程調整、活動内容等) ・ラウンド	褥瘡評価DESIGN-R®2020 参加人数 12名	①褥瘡評価の必要性について、褥瘡の重症度を具体的に数値化することにより、褥瘡の状態の評価やケアの方策につながることを説明した。実際に症例を提示して評価を行い、理解度の確認を行った。 ②症例をみながら評価することができた。DESIGN-R®2020を用いて統一した評価ができる。
第2回 8/30	・打ち合わせ ・ラウンド ・研修会 ・次回支援の内容確認	スキンケア、褥瘡処置に使用する外用剤について 参加人数 19名	①褥瘡と創周囲皮膚のスキンケアが治癒の促進につながることで、外用剤選択については創の状態や時期にあわせて選択していくこと、軟膏の特徴について説明し、実際の症例を提示して理解が深まるようにした。 施設にある限られた資材で行う工夫が必要。施設使用の薬剤を使った説明だったので分かり易かった。
第3回 10/1	・打ち合わせ ・ラウンド ・研修会 ・次回支援の内容確認	褥瘡予防と対策について ～体位変換からポジショニング、シーティングまで～ 参加人数 16名	①褥瘡ができる要因を説明後に、施設内で多い発生部位の仙骨部と踵部の褥瘡発生を防ぐための必要なケア方法について説明した。また、ラウンドでの振り返りをしながら説明し、理解が深まるようにした。 褥瘡予防、対策について再確認できた。ポジショニングや背抜きの方法を学ぶことができた。
第4回 11/29	・打ち合わせ ・ラウンド ・研修会 ・次回支援の内容確認	IAD(失禁関連皮膚炎)予防について 参加人数 13名	①IADとはなにか、IADを予防することが褥瘡の予防につながることで、失禁が皮膚に与える影響について悦び、具体的な予防と発生後のケア方法について説明した。失禁が皮膚に与える影響について理解でき、対策方法が分かった。スキンケアから褥瘡予防に努めていきたい。
第5回 11/18	・振り返りの会 ・打ち合わせ ・ラウンド ・研修会 ・報告会の準備と確認	症例報告 参加人数 11名	①これまで介入した入所者の褥瘡経過を振り返り、成果についてフィードバックした。また、これまでの研修会の内容についても振り返りながら説明した。 ②褥瘡が良くなっていく過程をみることで今後活用していきたい。ラウンドでは実際の処置や対応策を学ぶためになった。

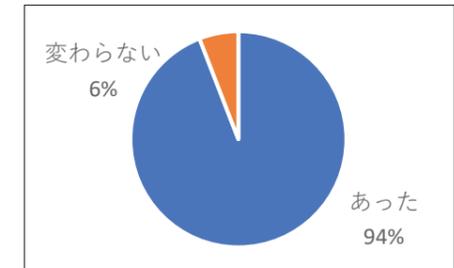
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：達成した

■今後の課題

- ・DESIGN-R®2020を使用した評価、アセスメント力の向上
- ・皮膚トラブル予防の為、予防的スキンケアの継続
- ・適切なマットレス選択等の除圧環境を整え、褥瘡予防を重視しケアを行う。
- ・褥瘡の早期治癒、褥瘡発生率0%を目指し、情報共有し根拠あるケアの継続

■職員の反応

- ・軟膏を使用せず褥瘡の改善がみられたケースがあり、看護師スタッフの驚きがあった。講義の他ラウンドを実施し、身近な問題を取り入れられたので興味深いものとなった。
- ・介護員とリハビリ職員は、ポジショニングとシーティングについて、ラウンドしながら講義を受けたのがわかりやすかったと好評であった。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・限られた環境の中で提供できるケアについて考えることができた。
- ・看護部全体としての日頃からの疑問などが話し合える良い機会となった。
- ・他職種も交えてラウンドすることで総合的にケアを考えることができた。
- ・講義の内容が施設の環境や状況に合わせられていて、とても参考になった。
- ・施設医師も研修会に参加し認定看護師の方と情報交換をしたことで、皮膚科領域に関して指示の内容も考慮してくれるようになった。

■困難であったこと

- ・日常業務をしながら期日までに行動していくのは大変だった。今後は各担当の役割を明確にしていきたい。
- ・パソコンの環境が施設によって違うので、整えていくまでに時間がかかった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・物品に限りがあるからと諦めるのではなく、根本を理解していれば対応策もあると意識が変わった。ケアに関し複数人で話し合い、ケアの統一を図るきっかけとなった。
- ・褥瘡の評価方法が根拠のあるものとなり、理解が深まっていると感じた。

(3)その他

- ・看護師、リハビリ職員、介護員等から「実際にラウンドしながらの講義がわかりやすく、質問をしやすく、わかりやすかった」「勤務の都合上、研修会に出席できないこともあったが、できれば全部出席したかった」との意見があった。

**令和6年度
看護力向上支援事業報告
皮膚・排泄ケア認定看護師の支援を受けて**

令和6年12月12日
老人保健施設敬愛シニアガーデン卸町
佐久間明実 油座清佳
酒井みほ子 梅津恵子

**医療法人社団敬愛会
介護老人保健施設
敬愛シニアガーデン卸町**

施設概要	勤務体制
・利用定員100名 (短期入所療養介護を含む) 現在89名	医師 1名
・介護度 要介護1～5	薬剤師 1名
・従来型老健施設	看護師 14名
・在宅強化型	介護職員 39名
・従来型個室 多床室	介護補助 3名
	リハビリ職 9名
	管理栄養士 2名
	支援相談員 3名
	ケアマネジャー 2名
	事務職 2名

R6.12.1現在

結果

症例1
処置方法の見直しとDESIGN-Rでの評価を実施し、褥瘡の治癒過程に合わせた軟膏の選択と浸出液のコントロールができたことで改善が得られた

症例2
拘縮や皮膚脆弱を考慮したクッションの入れ方や素材を検討し、良好な体圧分散、ポジショニングの統一について他職種で共有できた。

症例3
IAD(失禁関連皮膚炎)の予防が褥瘡の予防につながることを学び、スキンケアの重要性について認識することができた

目標とした
高齢者の脆弱な皮膚を理解し、個別性のあるケアにつながった

支援後の施設の変化①

- ・施設の限られた環境の中で提供できるケアについて再検討することができた
- ・物品に限りがあるからと諦めるのではなく根本を理解していれば、対応策もあると、全員の意識が変わった
- ・看護部全体としての日頃からの疑問などが話し合える良い機会となった
- ・除圧や軟膏の選び方、洗浄の重要性、保湿に関して一人ではなく数人で話し合うことができ(他職種でも)、ケアの統一を図るきっかけとなった

現状及び参加目的

- ・褥瘡処置と予防方法の知識不足
- ・持ち込みの褥瘡と発生率が高い
- ・褥瘡の評価基準が曖昧、DESIGN-Rの評価を取り入れたい
- ・脆弱な皮膚に対するケアの統一が出来るようにしたい
- ・使用できる薬剤に限りがある
- ・備品や設備不足
- ・ポジショニングが統一されていない
- ・多職種連携不足
- ・勉強会や研修などの専門知識が不足

目標: 高齢者の脆弱な皮膚を理解し、個別性のあるケアを提供できる

脆弱な皮膚
(もろくて弱い皮膚)

支援後の施設の変化②

- ・看護部の褥瘡の評価方法(DESIGN-R)が根拠のあるものになってきており、ラウンドと講義により、理解が深まっている
- ・他職種も交えてラウンドすることで総合的にケアを考えることができた
- ・施設医師も研修会に参加したことにより、認定看護師の方と情報交換をしたことで皮膚科領域に関して指示の内容も考慮されてきている。

今後の課題

- ・DESIGN-Rでの評価、アセスメント力の向上
- ・皮膚トラブル予防の為、予防的スキンケアの継続を行っていく
- ・適切なマットレスの選択と必要なクッション等を用いたポジショニングを実践し、除圧環境を整える。ズレと摩擦ケアに対する圧抜きを実践し発生予防に重視したケアを行っていく
- ・褥瘡の早期治癒、新規褥瘡発生率0%を目指し他職種で情報共有し、根拠あるケアを実施していく。

目標の継続
高齢者の脆弱な皮膚を理解し、個別性のあるケアを提供する

支援内容

支援日	1回目 7/2	2回目 8/30	3回目 10/1	4回目 10/29	5回目 11/18
研修会内	褥瘡評価DESIGN-R®2020	スキンケア、褥瘡処置に使用する外用剤について	褥瘡予防と対策について～体位変換からポジショニング、シーティングまで～	IAD(失禁関連皮膚炎)予防について	症例報告
ラウンド	褥瘡処置 ポジショニング DESIGN-R 軟膏選択 PEG周囲皮膚トラブル	褥瘡処置 ポジショニング DESIGN-R マットレス、クッション 選択	褥瘡処置 ポジショニング DESIGN-R マットレス、クッション 選択	IAD予防と発生後のケア 褥瘡処置 ポジショニング DESIGN-R マットレス、車椅子用クッション選択	

症例報告

症例	1回目 7/2	2回目 8/30	3回目 10/1	4回目 10/29	5回目 11/18
【症例1】 80代 女性 要介護4 部位 仙骨 発症 10年7月					
【症例2】 60代 男性 要介護5 部位 右背 発症 10年					
【症例3】 90代 女性 要介護5 部位 仙骨 発症 10年					

2) 公立小野町地方総合病院

施設名	公立小野町地方総合病院	実施分野	皮膚・排泄ケア
認定看護師	齋藤 敦己	所属施設	星総合病院

目標

- ◎基本的スキンケアを理解し、皮膚の状態に合わせた看護ができる。
- ・療養病棟における寝たきり患者のバスタオル使用率が、72%から20%へ減少する。
 - ・褥瘡・スキンケアに関するアンケートを行い、支援後、理解度が全項目において上昇がみられる。

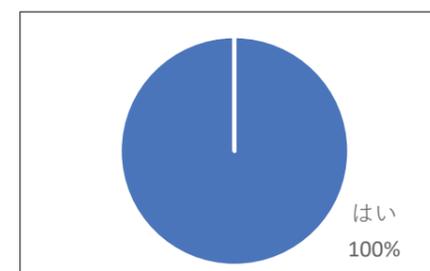
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/26	・挨拶、打ち合わせ ・病棟見学 ・研修会2回 ・病棟ラウンド4名 ・本日の振り返り	「高齢者の皮膚とスキンケアの正しい方法～これであなたも二刀流！陰部洗浄・保湿剤マスター～」 参加数 41名	①「皮膚の構造と生理機能」、「高齢者の皮膚の特徴」、「スキンケアの基本」、「便・尿失禁におけるスキンケア」についてわかりやすく勉強会を行った。保湿剤や被膜剤の使用方法に関する演習も行い、明日からのケアに活かせるようにした。 ②正しい保湿剤の塗り方を学べた。オムツかぶれの対応方法、オムツの当て方など、すぐ実践につながる情報が多くあり活用できる。
第2回 8/30	・打ち合わせ、会場準備 ・研修会2回 ・コンサルテーション依頼、患者の情報収集、前回介入後の状況確認 ・病棟ラウンド3名 ・ポジショニング表作成 ・本日の振り返り	「褥瘡予防の体位変換とポジショニング～ためしてガッテン！腰にやさしい持続可能なケア～」 参加数 54名	①スタッフ自身の身体的負担を軽減できるようにボディメカニクスや正しいポジショニングや体位変換についてわかりやすく行った。実践を取り入れ今回の支援の目標の一つであるシーツの上にバスタオルを常時敷くことを減らしていけるように、バスタオル使用率が多い病棟の師長さんとナースエイドさんにバスタオルで体位変換をされる体験やポジショニングの体験を行ってもらった。ハーディーグローブによる圧抜きやスモールシフト、スマイルシートを使用した体圧分散方法を提案した。「バスタオルは仙骨部に圧がかかっている。」「バスタオルで持ち上げられると思ったより怖い。」という感想があり、「バスタオルは外したほうがいい」と声が聞かれた。 ②一人でも簡単にできる除圧は夜勤で取り入れたい。スモールシフトぜひやりたい。
第3回 9/27	・打ち合わせ、前回介入後の状況確認 ・研修会 ・病棟ラウンド5名 ・ポジショニング表作成 ・本日の振り返り	「ととのいました！基本的な褥瘡ケア」（会場の都合で1回のみ開催） 参加数 15名	①褥瘡の歴史とDESIGN-R®2020について説明を行った。DESIGNの大文字から小文字にかえる治療方針の原則や褥瘡の治療の順序、院内採用されている軟膏の特徴や使用方法の説明を行った。演習では低伸縮性サージカルテープ、高伸縮フィルムドレッシングの違いを2人1組で実際に体験してもらった。 ②軟膏の使い方なども役にたった。体験型の場面もあり、わかりやすい説明だった。
第4回 10/18	・打ち合わせ、前回介入後の状況確認 ・研修会 ・病棟ラウンド4名 ・褥瘡相談1名 ・ポジショニング表作成 ・本日の振り返り	「その傷はもしかしてスキンケア？」 参加数 40名	①スキンケアとは、リスクアセスメント、発生、再発の予防ケア、ケアの実際について説明を行った。特に予防ケアでは市販のもので活用できそうな症例を提示した。STAR分類を用いて、カテゴリに応じて発生してしまったときの創傷管理についてわかりやすく説明を行い、皮弁の戻し方や実際にステリストリップ、メビレックスポーター、エスアイエイドを用いた演習を行った。院内で採用されている軟膏を用いた代用方法も指導した。 ②皮膚剥離時の皮弁について勉強になった。スキンケア時の処置方法がわかりやすく、予防が大切で適切な処置を提供できるようにしようと思った。
第5回 11/15	・振り返りの会 ・打ち合わせ、前回介入後の状況確認 ・研修会 ・病棟ラウンド6名 ・ポジショニング表作成 ・振り返り	「レッツトライ！ストーマケア（尿路）」 参加数 42名	①ストーマトラブルを起こさないためには、予防的スキンケアが重要となるため、私が星総合病院の泌尿器科病棟で作成した動画をを用いて在宅で入浴できないときのストーマ装具交換方法、入浴時のストーマ装具交換方法について説明を行った。在宅で使える物品を用いて指導した。演習ではストーマの模型ベルトを各自装着してもらい、実際のストーマ装具交換を行った。 ②動画での説明や実技がありイメージが付きやすい。実際の現場でも活かしやすい。ストーマのことを理解できた。

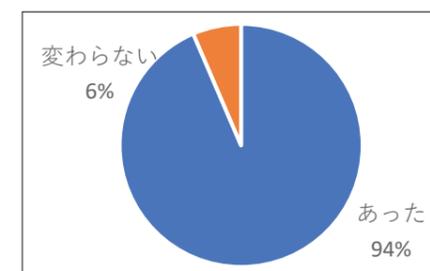
(1) まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・適切なケアを学んだ上で、当院の医材料や環境に合わせた最適なケアを選択し、継続していくこと
- ・特定行為看護師が活躍できるような体制の整備

■職員の反応

- ・専門的で根拠に基づいた指導により、自信を持ちケアの実践ができると前向きな発言
- ・丁寧な指導により、バスタオル使用率が格段に低下したことは有意義だった。
- ・リハビリ職員は、トランスファーも担当が、スキンケアのリスクや安全な方法を改めて学ぶことができ有意義だった。

(2) 担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・現状や課題を知ることで不足していることが明らかにできた。特に「保湿」「創部洗浄」「バスタオルの使用」に大きな変化がみられた。多くのスタッフが研修会に参加できた。
- ・以前より取り組んでいた保湿・洗浄・バスタオルについては、認定看護師からエビデンスを学び、病棟ラウンドによって、今までの経験+知識が加わり意識の変化につながったのだと感じている。

■困難であったこと

- ・メンバーの協力が得られにくいことがあり、「他人事感」を感じた。今更ながら担当者は数人もうけた方が円滑に進んだと感じる。
- ・終了後のアンケートが忘れがちになっていたこと。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと(抜粋)

- ・バスタオル使用の変化：病棟では毎月減少。在宅では外していくのは難しく感じる。
- ・スキンケア：平日のおむつ交換時に全身を、その後ケア時に部分的に塗布・乾燥が目につくときに塗るようになった。スキンケアが減少した。
- ・体位変換、ポジショニング：体の奥まで手を入れて体位変換するようになった。面を意識、踵の挙上も意識してポジショニングをするようになった。ポジショニングシートを活用。

(3) その他

- ・当院のような、認定看護師が少ない病院にとって大変有意義な事業ですので、今後も継続をお願いしたい。いずれは、当院の認定看護師も、指導する側に関われたら、と期待している。毎年のように、エントリーさせていただいているので大変有難い。

令和6年度 看護力向上支援事業

皮膚・排泄ケア認定看護師の支援を受けて
公立小野町地方総合病院
駒木根未来

公立小野町地方総合病院

概要

- 病床数119床
- 一般30床
- 地域包括30床
- 療養病床59床
- 総職員数 150名
- 看護職員数 90名
- 看護師60名
- 准看護師12名
- 看護補助者18名



支援内容

	1回 7/26 参加人数 41人	2回 8/23 参加人数 54人	3回 9/27 参加人数 19人	4回 10/13 参加人数 60人	5回 11/15 参加人数 42人
14:00~15:30 懇話会	高齢者の皮膚スキンケアの正しい方法	褥瘡予防の体位変換とポジショニング	基本的な褥瘡ケア	スキナーケア	ストーマケア
13:30~15:00	褥瘡ラウンド	褥瘡ラウンド	褥瘡ラウンド	褥瘡ラウンド	15:00~褥瘡ラウンド
支援内容	ポジショニング指導 3名	ポジショニング指導 3名	IADスキンケア指導 ポジショニング指導 褥瘡指導 5名	ポジショニング指導 褥瘡ケア指導 5名	ポジショニング指導3人 PEGケア2人
	ポジショニングの指導 エアマットのマットメイ ク指導	ポジショニングシート作成 ハードタイプの設置	パッドや敷物の提案	新設介入した患者の経過確認 訪問看護利用者のポジショニング	ポジショニングシート作成 PEGケア指導
バスタオル 使用	3F 1人/57人 4F 30人/54人	3F 6人/54人 4F 18人/54人	3F 1人/54人 4F 3人/55人	3F 3人/50人 4F 8人/53人	3F 6人/47人 4F 2人/53人

ラウンドや研修の様子



施設の現状

- 療養病床は半数以上の患者がバスタオルを使用し、体位変換は3~4時間毎
- 患者は高齢者が多く、寝たきりや関節拘縮が進んでいる方も多い
- CVカテーテルやCVポートからの高カロリー輸液で栄養管理をしている患者が多く、低栄養状態である
- リハビリの介入が進まない
- 陰圧閉鎖療法を導入している
- 使用しているアメニティは設定金額が上げられない

当院の状況

- 効果的な体位変換やポジショニングが標準化されていない
- 関節拘縮対策がとられていない
- DESIGN-R2020の評価が標準化されていない
- 創部の洗浄方法が標準化されていない
- スキナーが多い
- マットレスや体交枕などの物品不足

認定看護師のコンサルテーションを受け、変化したこと

- バスタオル使用に対する意識変化
バスタオル使用の減少
- スキナーケア
保湿 スキナーケアの減少
- 創部洗浄 1Lで洗浄を意識
- 体位変換、ポジショニング
研修を受け、学んだことにより
今までの経験+エビデンスが結びつく
⇒意識付けができた！

患者さんの褥瘡変化

	介入前	介入1ヶ月後	介入2ヶ月後	介入3ヶ月後
創の状態				
DESIGN-R 2020 点数	D3-e3s81g1n0p0 D3-13点	D3-e3s81g1n0p0 D3-12点	D3-e1s61g1n0p0 D3-9点	D3-e3s31g1n0p0 D3-7点
スタッフのケアの変化	バスタオルを外してポジショニングを行なった 十分な洗浄 (500ml→1Lへ変更した) 十分な軟膏の量			

学びたいこと

- 正しいスキナーケア、創洗浄方法
- 創部の状態に合った軟膏や創傷被覆材の選択
- DESIGN-R2020の評価
- 褥瘡予防のための有効なケアの方法
- スキナーケア時の処置
- 関節拘縮予防及び拘縮患者の体位変換やポジショニング
- 陰圧閉鎖療法について

目標と支援内容の設定

目標

「スキナーケアの基本を理解し、皮膚の状態に合わせた看護実践ができる」

- ①統一したスキナーケアと洗浄ができる
- ②バスタオル使用による弊害や体交・ポジショニングが理解できる
- ③スキナーケアの知識や対応方法を知ることができる
- ④創部の状態に合った軟膏・創傷被覆材の選択ができる
- ⑤ストーマケアを学ぶことができる

今後の課題

- 予防的スキナーケアの継続
- 効果的な創部洗浄の継続
- 効果的なポジショニングの継続
- 創傷被覆材の変更検討
- 褥瘡委員会の活動
リハビリや薬剤師、栄養士との多職種連携

支援を継続するために

- 定期的な勉強会の開催
- 褥瘡委員会やメンバーでのラウンドを行ない、ポジショニングや創部洗浄の確認を行う
- 多職種連携によるカンファレンスを充実させ、実施しているケアの振り返りや情報共有を図る
- 皮膚・排泄分野での再エントリー

3)日東病院

施設名	日東病院	実施分野	感染管理
認定看護師	柳沼 順子	所属施設	寿泉堂総合病院

目標

- ・手指衛生の目標回数を8回に近づける
- ・環境整備 1回/日の実施 → 10月～高頻度接触面をきちんと拭くことができる
- ・回診車の管理
- ・衛生材料の管理 器材の洗浄・消毒・滅菌・保管

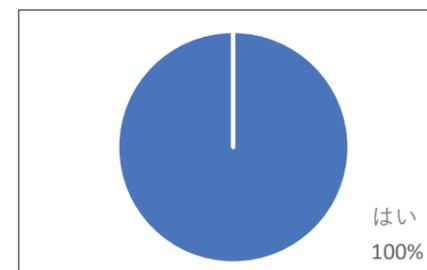
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/8	・打ち合わせ ・ラウンド ステーション、汚物室、病室 ・研修会 ・今後の進め方検討	手指衛生について 15名参加	①医療廃棄物容器の設置場所：手洗いシンク傍のため設置場所を検討 聴診器の置き場所：複数一緒に保管 保管方法の検討 コロナ患者収容時のソーニング、床テーピングやビニールカーテン撤去検討 おむつ処理、陰部洗浄容器の管理…適切確認 病棟における使用済み器材の処理方法…改善提案 ②参加動機：上司の勧め・活動に役立つ半々 研修会の内容：よく理解できた・理解できた…100% 今後の業務への活用：十分活用・活用できる…100%
第2回 8/5	・打ち合わせ ・進捗状況確認 ・ラウンド 透析室、内視鏡室、外来、材料室 ・研修会	感染経路別予防策について 19名参加	①洗浄用スポンジ交換頻度…1回/週。洗浄後物品の下にペーパー敷→廃止へ 透析液の床直置き→スノコ使用へ 透析室のPPEの着用 穿刺作業時手袋を交換するが、エプロンは未交換 患者ゾーンと医療エリアの考え方について再確認、止血ベルトの管理方法 →水撥ねするエリアで乾燥、軟膏類の使用期限の設定、滅菌業務 工程の 確認 BIの使用検討 ②参加動機：上司の勧め・活動に役立つ…100% 今後の業務への活用：十分活用・活用できる…92.4% あまりできない…7.7%
第3回 9/2	・打ち合わせ ・進捗状況確認 ・ラウンド 病棟、透析室、栄養科、 医療廃棄物倉庫、外来洗浄シンク、 外来コロナ検査対応 検査科、中材 ・研修会	ノロウイルス感染症について 実演は日東病院感染担当 2名で実施 25名参加	①手術室マニュアル 滅菌作業工程の記載あり 中央材料室の運用 外来・手術室と病棟では工程に違いがあり、マニュアル 作成と工程の一本化に課題。 栄養科：完全に外部委託のため介入困難。上司を巻き込みラウンドを提案 感染対策に係る研修会の開催 委託・警備・送迎などの職員を含めた提案 コロナ検体採取(検査科が担当)終了後の器材を検査室内シンクで消毒 →ビニール袋に入れて使用後環境クロスで清拭に変更 各患者の歯ブラシの洗浄…一人ずつ手袋を変えて洗浄を提案 床の清掃について提案、シンクの水撥ねするエリアに歯ブラシ物品あり(課題) ②参加動機：上司の勧め・活動に役立つ…90% 院内研修・興味あり…10% 研修会の内容について：よく理解・理解…100%
第4回 10/7	・打ち合わせ ・進捗状況確認 ・目標再設定 ・ラウンド 病棟、検査科、外来 ・研修会	洗浄・消毒・滅菌について 29名参加	①目標の「環境整備 1回/日」が7月～9月と達成したため目標を再設定した。 (環境整備の質向上を目指し実施状況を確認するとともに2回のアンケート を実施。どこを高頻度接触面とするか特定した) 回診車の整備：7月の提案後チェックリストを作成、物品数減少改善確認 患者のカップを使用し栄養剤を一日かけて飲用中→栄養科的にて病院の カップでの提供可能 内視鏡洗浄用シンク内シートのカビ様の付着→新しいシートへ交換 検査科のスライドガラスの脱脂用アルコール ガラス容器にアルコール浸 漬ガーゼを作成→単包のアルコール綿の使用を提案(問題なく変更とした) ②参加動機：上司の勧め・活動に役立つ…91.7% 院内研修・興味あり…8.3% 研修内容：よく理解・理解…83.4% あまり理解できない…16.7%(文言等が難しかった)
第5回 11/6	・打ち合わせ ・進捗状況確認 滅菌業務 ・ラウンド 検査科、外来 ・研修会 ・振り返りの会	環境整備について 23名参加	①感染対策向上加算3の取得に関して厚生局からの指導あり。 感染対策部門設置 感染対策指針の策定等(当院の対応を紹介)。 環境整備の目標の進捗の確認とアドバイスをを行った。滅菌業務に関する課 題を共有した。 外来シンクの使用について 歯磨き・手洗い・洗浄など用途毎に分けて使 用することを提案した ②事業評価アンケートより抜粋 25件回答 研修会の内容は今後の業務に役立つか：はい25名 今回の支援は今後の業務に活用：十分できる・できる22名 仕事やケアに関して意識の変化：あり22名 変わらず3名(「今までやってきたため」とのコメント)

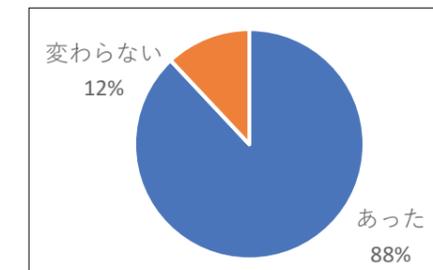
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・今回の支援を受けてスタッフ教育を含めどのように実践につなげることができるか。

■職員の反応

- ・勉強会参加の参加や指導のフィードバックから感染対策の理解が深まった。
- ・職員全体の勉強会では洗浄・消毒・滅菌管理について理解が深まり好評であった。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・施設内ラウンドの実施で、マニュアルや使用物品など、感染管理上正しくできているか確認や助言をいただき、見直すことができた。
- ・手指衛生の研修会后、手指消毒剤の使用量が増えスタッフの意識が変わったと感じた。
- ・ラウンド時の助言や、改善後のアドバイスもすぐにいただけることは、なかなか無いことなので、とても有意義だった。
- ・滅菌や衛生材料の管理などがきちんとできていないことがわかったため、今後どのように改善していくかの課題が明確になったことは良かった。

■困難であったこと

- ・環境整備や、回診車のチェック表(点検)など新しく始めたことが習慣化できるようにすることが難しいと感じた。
- ・感染対策には各部署や各スタッフの理解と協力が必要なため、改善が必要だとわかってはすぐに変更できないことも多く、意識改革が必要なことがわかった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと(抜粋)

- ・回診車のチェック表を作成し、定数と期限を確認することで、回診車の整理整頓にもつながった。
- ・環境整備での清拭場所を掲示したことで共通認識することができた。
- ・透析室の水撥ねする場所に物品を置かないようになった。
- ・感染性廃棄物段ボールのバイオハザードマークの印刷の変更を業者に依頼した。また、何をどこに捨てるか、実際の医材の写真を廃棄物の上に掲示するようにした。
- ・検査科の清潔ゾーン不潔ゾーンの区分け、コロナ等の検査後の物品の消毒方法の変更ができた。

(3)その他

- ・何をやるのかわからないまま参加したので、事前に事業内容を詳しく知りたかった。

令和6年度 看護力向上支援事業報告会

感染管理認定看護師の支援を受けて

2024.7~2024.11

医療法人社団 ときわ会 日東病院
看護部 市川 ひとみ 三瓶 華蓮

目標

- 1.手指衛生 アルコール使用量1患者当たり8回に近づける
- 2.環境整備 1回/日 実施率100%
- 3.回診車の管理
- 4.衛生材料の管理 滅菌物の洗浄・滅菌・保管の整備

医療法人社団 ときわ会 日東病院

感染対策研修会 全5回

月日	議題	参加人数
7月8日	「手指衛生について」	15名
8月5日	「感染経路別予防策について」	19名
9月2日	「ノロウイルス感染症について」	25名
10月7日	「洗浄・消毒・滅菌」	29名
11月6日	「環境整備」	23名

講師 寿泉堂総合病院 柳沼順子感染管理認定看護師

医療法人社団 ときわ会 日東病院

1.手指衛生 アルコール使用回数1患者当たり8回に近づける

病棟 1患者当たりのアルコール消毒使用回数

計算式 1患者当たりのアルコール使用回数=アルコール使用量/入患者数
(ラビジュル1プッシュ/1回=1ml)

医療法人社団 ときわ会 日東病院

1.手指衛生 アルコール使用回数1患者当たり8回に近づける

	4月/m.l	10月/m.l	増減
A	270	140	-130
B	430	370	-60
C	150	180	30
D	200	248	48
E	200	250	50
F	30	80	50
G	250	310	60
H	170	260	90
I	700	800	100
J	200	300	100
K	80	130	50
L	290	410	120
M	300	480	180
N	120	300	180
O	160	370	210
Q	340	810	470
P	230	840	610

病棟職員への指導いただく前と後の比較です。使用量の少ない職員にアプローチするかが課題でした。出勤時と退勤時にスケールで重さをはかると1日の使用量が見える化したり、手指衛生の必要な場面できていない時に直接声掛けをするなどのアプローチを行いました。

結果
使用回数が増えた職員が2名
使用回数が増えた職員が15名
見られました

課題
病棟の使用回数は目標達成しましたが、職員個人の使用量には個人差があり、新たに使用量について課題が残りました。

医療法人社団 ときわ会 日東病院

2.環境整備 1回/日 実施率100%

問題点

- 看護師による環境整備実施率ほぼゼロ
- 看護補助者に行ってもらっていたが、看護補助者の移動があった以降環境整備がおろそかになってしまっていたため、改めて目標を立てた

改善策

- ラウンドカートに環境整備を行う場所を明記
- 患者ラウンド時に毎日清拭するよう促しアンケートを2回行い実施状況の確認を行った

環境整備

(環境整備の場所)

- ▶ AED/オースコル
- ▶ ペット/PEコン
- ▶ オートテール
- ▶ ベッド
- ▶ ナースコール
- ▶ 戸締り/電子
- ▶ 電気スイッチ
- ▶ テレビ/PEコン
- ▶ 床清掃

1回目実施率96.5% 2回目実施率100%

医療法人社団 ときわ会 日東病院

2.環境整備 質の向上

100%実施できているとのアンケート結果からさらに踏み込んで蛍光剤を使用して清拭状況を抜き打ちチェックしました。朝塗布し、翌日の夜勤帯でブルーライトで確認しました。これを3回ほど行いました。

オートテールとオースコルは清拭がきちんと行えていたが、そのほかの箇所で拭き残しが見られました。蛍光剤が残っていた箇所を毎朝のミーティングで何度も繰り返し伝え、どの様に拭いたかも確認したことで、質の向上を行う事が出来ました。

反省点・・・サラヤの手指用蛍光剤を使用しましたが、金属類に付着すると50回くらい拭かないと取れないことが判明しました。

医療法人社団 ときわ会 日東病院

3.回診車の管理 改善前

当院の回診車で何がどのくらいあるのかを書き出した所84項目の医材が詰め込まれており定数を決めても守られていませんでした。詰込みにより滅菌物の破損も考えられる状態でした。軟膏類の開封日や使用期限も記入されていませんでした。

品名	数量	定数	備考
...

医療法人社団 ときわ会 日東病院

3.回診車の管理 改善後

医材の種類を約半分の46項目に削減し定数を決め、毎日定数と期限をチェックすることとした結果、定数が守られるようになりました。軟膏類も開封後3か月と設定し使用期限を記入することを徹底することができました。

品名	数量	定数	備考
...

医療法人社団 ときわ会 日東病院

4.衛生材料の管理 滅菌物の洗浄・滅菌・保管の整備

問題点

- 当院は中材スタッフがいない為、各部署の看護補助者がそれぞれの方法で洗浄、パッキングし、オートクレーブは臨床工学技士が実施している
- 滅菌期限の記入がパッキンの内側にマジックで書かれている
- 使用していない滅菌物の無駄な再滅菌がある
- BIの実施がされていない
- リコールや払い出しに対する管理ができていない

各部署の滅菌方法

病棟 予備洗浄スプレー後→ベッドパウオッシャー洗浄→滅菌
透析室 用手洗浄→乾燥→滅菌
OPE・外来 超音波洗浄パワーミルク→パワークイック→すすぎ→乾燥→パッキング→滅菌

医療法人社団 ときわ会 日東病院

4.衛生材料の管理 滅菌物の洗浄・滅菌・保管の整備

改善点

- 各部署でOPE室器材と同じ工程で洗浄滅菌できるよう、看護補助者に滅菌の工程の研修を行い、マニュアルを作成しルールを統一しました。
- 定数を決め、無駄な再滅菌を行わないようにしました。
- BIの実施のため、業者に合い見積もり依頼中
- 滅菌物の払い出し表でいつ何を滅菌し、どこに払い出したかなどの物の管理ができるようになった

各部署の滅菌方法の統一

- 各部署で予備洗浄スプレー後密封した運搬用
- 超音波洗浄パワーミルク→パワークイック→すすぎ→乾燥→パッキング→滅菌

医療法人社団 ときわ会 日東病院

まとめ

感染管理認定看護師介入していただき今回の目標以上の成果を上げることができたと考えています。目標以外にも聴診器のおき場所、感染性廃棄物の段ボールのバイオハザードマーク表記など業者を巻き込んで改善することができました。また、アンケート結果からも研修を通して職員の意識がかなり向上したことが分かりました。

今後の課題

- 改善できた箇所をいかに維持できるかが課題となり、研修から日がたつと、スタッフの意識が低下し、「感染対策をやらされてる」感に戻ってしまう恐れがある為、ラウンドを重ね、現場の大変さも理解しつつ協力してもらえよう根気強く対話し、感染対策は「必要だからやるのが当たり前」になるようにしたいと考えます。
- 手指消毒の意識の低い職員は、開始当初と比べてあまり変わらなかった職員もいたため、どうしたら改善できるかを引き続き考えていきたいと思っております。

医療法人社団 ときわ会 日東病院

4)飯塚病院

施設名	飯塚病院	実施分野	感染管理
認定看護師	小野寺 健士	所属施設	福島県立医科大学 会津医療センター附属病院

目 標

- ・標準予防策及び感染経路別予防策を理解し、日々患者と接触している場面で伝播しない行動が実践できる。
- ・感染症発生時に速やかな対応ができる(マニュアルの整備)。
 1. 感染対策の課題を明らかにする。
 2. 明らかになった課題の解決策を検討し周知・実践する。
 3. 課題に関連した研修を受け、研修前後の小テストの正答率が上昇する。
 4. 看護部職員の研修受講・視聴率が90%以上となる。

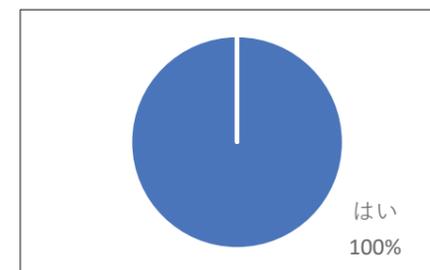
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/12	・打ち合わせ ・研修会 ・小テスト ・病棟ラウンド(A・B・C病棟)	「標準予防策感染経路別予防策について」 参加人数 24名	①【研修会】標準予防策の考え方を入念に、かつ事例も含めて説明した。研修会前後で小テストを実施し、正答率は67.39→91.30%まで上昇【ラウンド】複数病棟のラウンドを行い、相談対応や困っていることの把握と改善案を提案した。【打ち合わせ】ラウンド結果と担当者との意見をすり合わせ、目標達成のための課題を明確にした。 ②当院に合った内容だった。具体的だった。
第2回 8/7	・打ち合わせ ・病棟ラウンド(C病棟)	延期(落雷による病院内停電)	①【病棟ラウンド】Covid-19クラスター発生病棟へ伺い、対応について困ったことや工夫した点を確認し、適宜アドバイスを行った。その他相談事例への対応について説明を行った。【担当者への指導】災害時に起こりうる感染対策(断水時の手指衛生やトイレ管理等)についてアドバイスを行った。【打ち合わせ】床の管理方法(清掃・消毒)方法、感染経路別予防策ピクトグラムの内容を検討した。研修会の予定変更について協議した。 ②研修延期につきなし
第3回 9/4	・打ち合わせ ・研修会 ・小テスト ・病棟ラウンド(A・D病棟)	「感染症発生時の速やかな対応～7病棟のアンケートから見えるもの～」 参加人数 17名	①【研修会】C病棟でCovid-19クラスターが発生していたため、急遽アンケートを行い、その解説を研修内容に盛り込んだ。研修会前後で小テストを実施し、正答率は87.18→94.12%まで上昇【ラウンド】各相談に対して提案した。また、これまでの相談および提案内容はデータ管理し、師長会などで引き続き全病院的に共有を図るよう依頼した。【打ち合わせ】床の管理方法、感染経路別予防策ピクトグラムについて進捗を確認した。 ②わかりやすい内容だった。
第4回 10/2	・打ち合わせ ・研修会 ・小テスト ・病棟ラウンド(A・D病棟)	「薬剤耐性菌における感染対策について～その手・物・環境が感染を拡げているかも～」 参加人数 19名	①【研修会】第2回に予定していた内容も含めて修正した。研修会前後で小テストを実施し、正答率は35.53→68.42%まで上昇【ラウンド】改善箇所の確認を行った。【打ち合わせ】床の管理方法、感染経路別予防策ピクトグラムについて最終検討を行った。さらに平時の感染対策ラウンドチェックや追跡方法について協議した。 ②すぐにも改善したいと思う。今必要な内容だった。
第5回 11/6	・振り返り ・研修会 ・病棟ラウンド(A病棟)	「支援結果報告」 参加人数 16名	①【振り返り】全体的な振り返りを行い、成果や今後の課題などについて共有した。【研修会】支援期間中に行った全3回の小テストの復習の内容を含めた。また、支援による目標の達成度、施設内の改善事項などを紹介した。最後に今後に向けた提言をさせていただいた。【ラウンド】改善事項の再確認、維持されているかを確認した。 ②今までやってきたことを話していただいていたのでわかりやすかった。解説がわかりやすかった。

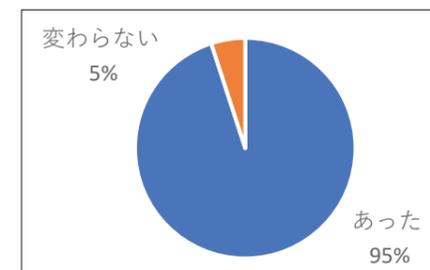
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：達成した

■今後の課題

- ・毎回の研修により、新型コロナやインフルエンザに限らず、薬剤耐性菌への予防策や、平時の療養環境への清潔行動を見直すことができた。具体的には精神科特有である床の清掃、常備消毒薬の検討、吸引システムや点滴スタンドなどに対する感染対策、対策の視覚化としてのピクトグラム整備等である。すでに4回の指導をいただいているが、感染対策行動が文化として根付くにはもう少しの期間が必要。当事業終了後も病院全体の課題として取り組んでいきたい。

■職員の反応

- ・具体的に看護の現場で教えてもらえた。指示が的確でわかりやすい。最新の知識を教えてもらえた。普段行っていることでも見直す機会になった。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・ラウンドにより、院内での感染対策の課題を抽出し、課題についてご指導やアドバイスをいただいたことで、基本的な感染対策の改善が図れた。
- ・感染経路別予防策については、ピクトグラムを作成できたことで、見ながら迷わず適切な予防策ができるようになるという効果がありました。
- ・疑問や相談に早急に対応していただき、ありがたかった。

■困難であったこと

- ・コスト面が関わってくると、変更や導入が困難なことがあった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと(抜粋)

- ・床の消毒方法が病棟ごとにまちまちであった → 根拠を伝え、統一を図れた。
- ・吸引ボトル洗浄後拭いて設置 → 水分をふき取り後、アルコールで清拭消毒し設置した。
- ・紙媒体の掲示物 → 撤去。必要な表示はテプラで表示した。
- ・紙容器や段ボールの再利用があった → 清拭可能な容器へ変更した。
- ・点滴台に不要な物品があった → 撤去し清潔に管理している。
- ・膀胱留置カテーテルのバッグが床に接触していた → 工夫し浮かせた。
- ・研修やラウンドを通じて、感染対策の意識が高まったように感じている。

(3)その他

- ・認定看護師の育成が進んでいない病院には非常にありがたいので継続していただきたいと思います。

看護力向上支援事業報告

感染管理認定看護師の支援を受けて

医療法人 咋雲会 飯塚病院
齋藤利恵

病院概要

- ・病床数：410床
(精神科一般病床240床、認知症治療病床170床うち50床休床)
- ・看護職員数：190名
(看護師70名、准看護師74名、看護助手46名)
- ・感染管理認定看護師および専従者は不在

6つの病棟を有しており、大部屋が主体である。
精神科病棟の特性もあり、患者間の交流を主体とした治療をとりいれている為、集団生活が多い。
感染対策に関して、患者の協力を得るのが困難なことが多く、日頃から、感染対策に悩んでいた。

目標

1. 感染対策の課題を明らかにする。
2. 明らかになった課題の解決策を検討し周知・実践する。
3. 課題に関連した研修を受け、研修前後の小テストの正答率が上昇する。
4. 看護部職員の研修受講・視聴率が90%以上となる。

目標に対する行動計画

1. 感染対策の課題を明らかにする。
相談内容の確認(担当者・各部署)、病棟ラウンド
2. 明らかになった課題の解決策を検討し周知・実践する。
求められる感染対策を踏まえつつ、院内で実践可能な対策であるか検討

目標に対する行動計画

3. 課題に関連した研修を受け、研修前後の小テストの正答率が上昇する。
研修内容の重要ポイントを盛り込んだ小テストを実施
4. 看護部職員の研修受講・視聴率が90%以上となる。
実参加者を把握し、不参加者には、研修動画を視聴するよう促す

目標の達成度について

1. 感染対策の課題を明らかにする。
床の管理統一、感染経路別予防策ピクトグラム作成、環境整備の改善
2. 明らかになった課題の解決策を検討し周知・実践する。
1.の内容とすべての相談内容(30件以上)を感染委員会や師長ミーティングを通じて周知 支援事業中の稼働も確認している
3. 課題に関連した研修を受け、研修前後の小テストの正答率が上昇する。
すべての小テストで上昇
4. 看護部職員の研修受講・視聴率が90%以上となる。
98%を達成



結果 (一部をご紹介)

- ・吸引ボトルの洗浄後管理方法の再検討
- ・紙媒体掲示物の長期掲示撤去し、必要な表示はテプラで表示
- ・紙容器や段ボールの再利用があったが清拭可能な容器へ変更
- ・点滴台に不要な物品があったがすべての物品を撤去
- ・手洗いシンクの水跳ね範囲に物品があったが、すべて撤去し、アクリル板も設置した部署もあった。
- ・膀胱留置カテーテルのバッグが床に接触していた
→ 浮かせるための方法を検討し実践した。

今後継続していくために

- ・学び得た知識や改善点を研修で伝達する。
- ・各病棟の部署責任者や感染委員が中心に、改善点が維持できるよう声かけをしていく。
- ・マニュアル改訂を進めていく。
- ・改善したところや、維持できたことを認め、讃える。

5)土屋病院

施設名	土屋病院	実施分野	認知症看護
認定看護師	大河原 靖子	所属施設	星総合病院

目 標

- ・認知症とせん妄の違いがわかる。
- ・せん妄チェックリストを取り入れて、アセスメント、看護計画立案、評価ができる。
- ・認知症とせん妄が理解でき、身体拘束を減らすための対策ができる。

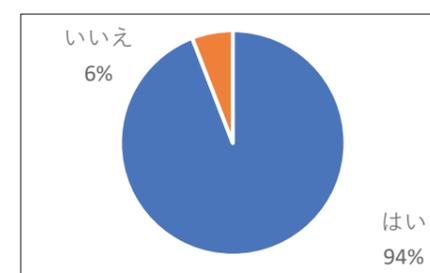
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 6/25	・打ち合わせ ・研修会 ・病棟ラウンド ・次回研修会の打ち合わせ	「認知症とせん妄について」 参加者 53名	①認知症の定義、せん妄の定義、認知症とせん妄の違いについて説明した。病棟ラウンドでは、目の前の認知症高齢者がなぜその行動をとっているのかを考えること、その行動が本人のどんな思いから起きているものであるのかを考え、支援していくことが必要であることを説明した。 ②基本的な知識の内容であったため、高齢者との関わりで生かせる内容であった。研修の内容が理解できた。認知症の方への対応方法を改めて考え直して援助ができる。
第2回 7/18	・打ち合わせ ・研修会 ・病棟ラウンド ・次回研修会の打ち合わせ	「認知症とせん妄の看護のポイント」 参加者 21名	①認知症ケアの視点、パーソン・センタード・ケア、カンフォータブル・ケアについて説明した。その人らしさを大事にすること、高齢者が安心感を感じることができると環境調整の重要性を説明した。病棟ラウンド時も活動と休息のバランスを整えることができるような環境調整も含めた支援について説明した。 ②認知症やせん妄の方への対応が具体的に学べた。高齢者との関わりだけでなく、職員への指導としても活用できる内容であった。相手を否定しない。認知症の「人」として対応できるようにしたいと思った。
第3回 8/22	・打ち合わせ ・研修会 ・病棟ラウンド ・次回研修会の打ち合わせ	「認知症とせん妄の評価せん妄ハイリスク患者チェック用紙の活用」 参加者 26名	①認知症ケア加算・自施設での加算の手順、せん妄ハイリスク加算・自施設での加算の手順(せん妄ハイリスク患者チェック用紙の活用方法も含む)について説明した。病棟ラウンド時は疼痛等本人が苦痛と感知することがせん妄の引き金になっているため、苦痛の緩和や本人が穏やかに過ごせる時間の提供について説明した。 ②加算については難しかったが理解できた。せん妄ハイリスク患者への対応策が具体的でわかりやすかった。具体的な例があったので、自分も患者への関わりに活用できるし、指導もできると思う。
第4回 9/26	・打ち合わせ ・研修会 ・病棟ラウンド ・次回研修会の打ち合わせ	「認知症とせん妄のアセスメント」 参加者 15名	①認知症の症状、BPSDについて、認知症者にとっての環境について、せん妄のアセスメント用紙について説明した。病棟ラウンド時も、便秘等本人の気になることが不眠につながっていると思われたため、本人の気がかりを取り除き、本人が安心して休めるような環境調整をしていく必要性を説明した。 ②せん妄アセスメントシートを活用して看護計画立案にいかしたい。現場で生かすカンフォータブル・ケアの例を学べた。
第5回 10/24	・打ち合わせ ・研修会 ・病棟ラウンド ・振り返り	「身体拘束の弊害と看護」 参加者 22名	①身体拘束最小化の強化・基準、身体拘束最小化チームについて、身体拘束の3要件・弊害、身体拘束の代替案、身体拘束解除に向けた支援について説明した。身体拘束の解除には、小さな成功体験を積み重ねていくこと、取り組みは長期戦であるが諦めずに継続することが必要であることを説明した。 ②身体拘束のありかたについて考えることができた。少しずつでも拘束を外す努力を進めたい。多職種での連携が必要。

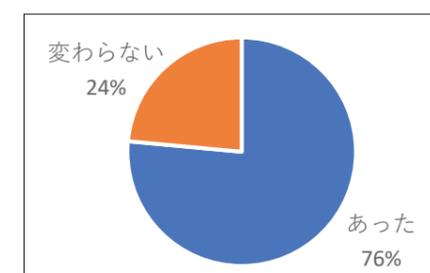
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・今回の学びが、スタッフ全体のアセスメント力の向上や実践力のアップにより、身体拘束が減るような取り組みができると良い。

■職員の反応

- ・認定看護師の講義についてはわかりやすいとの意見も多く講演を熱心に受けており好評であった。当日の参加は人数調整が厳しかったが録画などでも対応して勉強ができたので良かった。
- ・2回ほど多職種にも参加してもらったが具体的な患者さんとの関わり方についての説明もあり好評であった。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・当院ではこれからせん妄の評価を取り入れ看護計画立案を実施していこうとしていたため、認知症ケア認定看護師の知識とアドバイスを受けて4か月間で導入することができた。認知症の理解と行動制限の必要性を倫理的な側面から学び行動制限ゼロについて考えるきっかけとなった。

■困難であったこと

- ・せん妄評価、テンプレートの導入やせん妄看護計画評価が定着するまで検討と見直しが必要で時間を要した。行動制限をなくすための困難さがあった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・講義に参加したことで多職種スタッフと認知症について学ぶことができ、講義テーマを院内スタッフで共有できた。
- ・せん妄についての理解が深まり、受け持ちのリスクマネジメントが可能となったことでせん妄看護計画立案を見直すことができた。
- ・高齢者が多い中で認知症との関わりも多いため、症状の理解が広まることにより、皆で関わり方の工夫ができアセスメント評価がしやすくなった。

(3)その他

- ・数か月後、または半年後にフォローアップとしてご意見や指導をいただけると嬉しい。
- ・説明内容がわかりやすくパワーポイントと資料を用いて好評であった。アドバイスを受けたい時にご指導いただき大変助かった。また、フォローしていただく機会があるとうれしい。

令和6年度 看護力向上支援事業 報告

認知症看護認定看護師の支援を受けて
2024年12月12日

医療法人慈繋会 土屋病院
佐藤道子
発表 鈴木ナツ子

施設概要

- ・総病床数 99床
- ・地域包括ケア病棟 31床
- ・介護医療院 19床
- ・療養病棟 49床
- ・看護職員数
 - 看護師 36名 准看護師 15名 看護助手 8名
- ・認知症ケア加算3算定



当院の課題と目標

課題

- ・せん妄に対する評価ができておらず対策が不十分である。
- ・行動制限解除の対策案がなく解除できない状態が続いている。

目標

- ・認知症とせん妄について知識を深め対策について共有できる。
- ・せん妄の看護計画立案と評価の方法、アセスメントや具体的な計画・対応について話し合える
- ・身体拘束を減らす取り組みができる。

講義内容

- 1回目 6月 認知症とせん妄について
- 2回目 7月 看護のポイント
- 3回目 8月 評価・計画立案 チェックリストの活用
- 4回目 9月 実施と評価 アセスメント
- 5回目 10月 身体拘束と弊害と看護

支援前後のアンケート



項目	前	後
認知症とせん妄の違いが分かりますか	74	87
せん妄計画立案をしたことがある	21	90
身体拘束を減らしたいですか	74	87

どのような時に身体拘束を減らしたいと思うか

- ・褥瘡の発生リスクがあるとき
- ・看顧倫理の面から望ましくない
- ・拘束を早めるため
- ・患者にストレスがかかっていると思う
- ・怖いという視点で行っているとき
- ・家族がミンを外し手をききずっているとき
- ・皮膚トラブルが発生したとき
- ・外したいと本人が訴えているとき
- ・印象が良くない
- ・できるだけ今までの生活状態に近づけたいと思うとき
- ・姿が痛々しい
- ・記録が多い時、拘束を減らしたいと思う
- ・辛い表情があるとき
- ・負担や尊厳を考えるとしたくない

身体拘束ゼロにできないと思う理由

- ・危険行為があるため難しい
- ・適切な医療が受けられない
- ・認知機能低下があり理解してもらえない
- ・安全を考慮
- ・自己抜去のリスクがある (末梢点滴、CV、ボート、ピック、気切チューブ、NGT)
- ・業務量が多くずっと見ていられない
- ・転倒転落がある
- ・観察が行き届かない
- ・自傷行為がある
- ・患者の身体に影響が大きい
- ・外す提案がなされない

目標評価 (コンサルテーションを受けて変化したこと)

- ・せん妄評価の知識を得て、**テンプレートの導入**を行った。
- ・せん妄についての理解が深まり、せん妄看護計画立案を増やすことができた。【21%⇒90%↑】
- ・認知症の症状の理解が深まった事でアセスメント評価がしやすくなり、対応の工夫ができるようになった。
- ・身体拘束の三原則を再認識し、身体・精神へ与えるデメリットを考え**週1回のカンファレンス**への取り組みができた。
- ・身体拘束の一時解除や代替案について**声が上が**ようになった。身体拘束人数【20人⇒13人↓】(6~11月)

仕事やケアに関して、76%が意識に変化があったと回答 (一部抜粋)

- ・さらに患者様に**寄り添ったケア**ができると思った
- ・相手を否定しない、認知症の「人」として対応できるようにしたい
- ・せん妄ハイリスク患者への対応策が具体的で分かりやすかった
- ・看護師として**仕事に向き合う姿勢**を考えさせられた
- ・身体拘束は**デメリット**が多いと分かった
- ・**適正な対応を重視**するようにしたい
- ・土屋病院全体がよりよくなるために知識を得て向上していきたい

明確になった課題

- ・せん妄アセスメントシートを活用し症状のチェックと対応までの流れの確立が不十分。
- ・カンファレンスの充実を図り、アセスメント力の向上や対応実践力をアップさせ身体拘束解除、または一時解除へつなげていく。



5回目の講義を聞いた意見

【身体拘束と弊害について】

- ・業務優先の患者への関わりとなっているため、気持ちを改めて関わる必要があると感じた。
- ・患者さんの状態を見ながら**解除していきたい**。
- ・自分の仕事を楽にするためという思いが多くある為、できれば**早く方向性**を考えていきたい。
- ・少しずつ拘束を外せるように、多職種でのカンファレンスを行ったり**こまめにアセスメント**をして解除できる様になりたいと思う。
- ・**デメリットが多い**ため、やらなくて良いのならやりたくはない。
- ・拘束の代替案を実践し、病棟内の**抑利率を下げられるよう**意識して取り組みたい。

継続していくためには

- ・入院時からせん妄チェックリスト、テンプレートへ入力。
- ・せん妄ハイリスク患者には対策をチェックし看護計画立案をする流れが確立した。
- ・受け持ち看護師が1週間後にせん妄看護計画を評価し対策をたてる。
- ・行動制限カンファレンスを週1回行い、身体拘束解除に向け皆で代替案を考える。または一時解除を行うことで成功体験を積み重ねる。

継続的に考え解決策を図っていく

6)池田記念病院

施設名	池田記念病院	実施分野	認知症看護
認定看護師	小室 真紀	所属施設	白河厚生総合病院

目 標

1. 認知症、せん妄の基本を理解し、アセスメント方法やケアについて学ぶことができる
2. 身体拘束と倫理について理解できる
3. 認知症ケア加算、せん妄ハイリスク患者加算算定の仕組みづくりができる

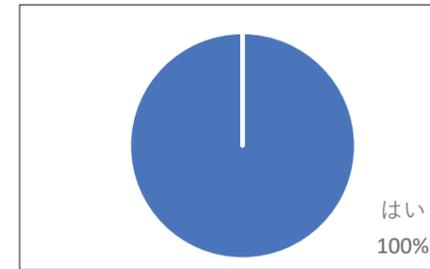
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/17	・打合せ ・病棟ラウンド ・研修会 ・目標、加算関連のミーティング ・次回打合せ	「認知症とは」 参加者 20名	①高齢者のからだの特徴から認知症の定義を提示し、認知症高齢者は不安や悲しみとともに生きるということを講義した。動画により認知症に関心が向くような内容とした。ラウンドではコミュニケーション困難、排泄コントロール困難の認知機能低下の患者に対し、環境調整、リアリティオリエンテーションの実施、排泄パターンの把握とトイレ誘導、夜間睡眠の確保のアドバイスをした。 ②基本的なところを改めて学習できた。頻尿の患者へのアプローチ方法をすぐ実践したい。認知症に対応するとき思考と、そもそもの身体の変化を再認識することで関わり方を変えられそう。
第2回 8/21	・打合せ ・病棟ラウンド ・記録確認 ・研修会 ・目標、加算関連のミーティング ・次回打合せ	「認知症と認知症ケア加算」 参加者 19名	①4大認知症の特徴、中核症状を説明し、それらの影響により入院生活が困難になっていることを関連付けた内容とした。また、認知症ケア加算の主旨、要件の説明を行った。ラウンドではトイレ回数の多い方、夜間大声を出してしまう方はその原因となる因子を考えなければならぬ。また、日中の過ごし方で車いす移乗されているが、30分座ったら一度立位をとること、車いすに長時間座ることは苦痛であるためクッション等の工夫が必要であることを助言した。研修会の質問に対しては帰宅願望のある患者は日中からのケアが必要であり、見守り、傾聴に加えせん妄因子のアセスメントをしていくことを伝えた。 ②認知症の患者の看護として、難しい部分が多々あったので、どうすれば良いのか、なぜそのような行動なのかを考えることができた。
第3回 9/18	・打合せ ・病棟ラウンド ・研修会 ・目標、加算関連のミーティング ・次回打合せ	「症状の対応・ユマニチュード」 参加者 16名	①BPSD、せん妄をどのような視点でアセスメントするのか、その対応はどのようにしていくのかを実際の事例をもとに説明した。また、ユマニチュードは動画を用いてケアのお手本を示し、ひとつでも現場で実践できるよう助言した。ラウンドでは帰宅願望、感情失禁などの対応方法、実際の患者との関わりからどのようにコミュニケーションをとっていくかをアドバイスした。 ②まず最初に患者の視界に入ることが大切だと学んだ。明日からでも実践できる内容であった。
第4回 10/23	・打合せ ・病棟ラウンド ・研修会 ・目標、加算関連のミーティング ・次回打合せ	「せん妄・せん妄ハイリスク患者加算」 参加者 20名	①せん妄と認知症の違い、せん妄はリスク因子をアセスメントし除去していくことで軽減する。また事例を紹介し、実際の家族と看護ケアの内容をお伝えした。ラウンドでは患者のテーブルに「池田記念病院に入院中です」の紙があった。その紙は促しや確認を看護師と一緒にすることで生きてくことを伝えた。また、大声や体動などの焦燥がある患者であったが、その理由を聞く、夜間眠れるようなアプローチが必要であることを伝えた。 ②せん妄と認知症の違いについて再認識した。具体例がありわかりやすかった。介入について考えることができた。
第5回 11/18	・打合せ ・病棟ラウンド ・研修会 ・振り返りの会	「身体抑制と倫理」 参加者 15名	①「倫理とは」、「身体抑制の3要件とは」、身体抑制の判別を提示し考えてもらった。身体抑制は人の尊厳を奪う行為である、私たちは尊厳を守りながらリスクマネジメントも行わなくてはならない。現在そのバランスは保たれているか。リスクばかりが重視されていないかを強調した。抑制しないためのケアをお伝えした。 ②先回りして状況を考え、せん妄と抑制を減らしていきたい。すぐに抑制せずに、不安を取り除く、患者の欲求を叶えるように努力していきたい。看護記録を詳細に残すこと、倫理を考えて行動することが大切で活用できると思う。

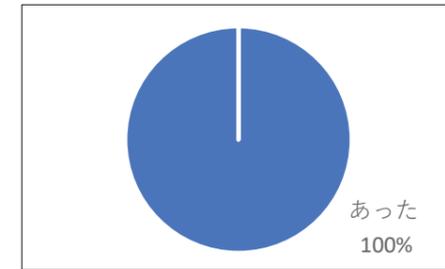
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・認知症ケア、せん妄予防についての職員の周知、ケアの方法の院内統一
- ・令和7年度認知症ケア加算3取得に向けた、マニュアルの作成、研修の実施

■職員の反応

- ・具体的な事例によるケアの方法やアプローチの仕方が理解できた。
- ・認知症の基礎的な知識や対応についてすぐに実践できる内容が多かった。
- ・認知症の患者のケアとして、難しい部分が多々あったので、どうすれば良いのか、なぜそのような行動をするのか理解できた。
- ・ユマニチュードを意識した関わりを実施していきたい。
- ・せん妄は促進因子に対する対応で発症が最小化することが理解できた。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・認知症、せん妄予防ケアに対するスタッフの意識が変化した。
- ・加算を取るために、何をすれば良いか、具体的に指導していただいたので、令和7年度取得に向け足掛かりとなった。
- ・症例を見ていただき、院内ラウンドを実施し具体的な関わり方を示していただいたことで、患者の症状の改善につながる事例もあった。

■困難であったこと

- ・時間配分がうまくできず、支援の時間が十分に取れなかった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・せん妄ハイリスク加算取得のための見直し、実際に患者に使用するチェックリストの見直し、せん妄予防ケア・せん妄発生時のケア統一のための看護計画の立案、患者・家族説明用のパンフレットの作成ができた。
- ・認知症ケアマニュアルの大枠は完成した。これから細かい修正が必要と思われる。
- ・スタッフの患者との関わりの変化が実感できるようになった。
(リアリティオリエンテーションのための時計、カレンダーの準備や関わり方)
- ・身体拘束マニュアルの見直し、フローを作成できた。

(3)その他

- ・感染症が落ち着いたら、シミュレーションやグループワークを交えた研修をしていただきたいと思います。

令和6年度 看護力向上支援事業報告

認知症看護認定看護師の支援を受けて

令和6年 12月12日(木)
医療法人三愛会 池田記念病院
水野 奈都子

施設概要

- 病床数: 急性期一般病棟56床(看護基準10:1 急性期一般病棟入院料4)
地域包括ケア病棟26床(地域包括ケア病棟入院料2)
回復期リハビリテーション病棟60床
(回復期リハビリテーション病棟入院料3)
- 診療科: 整形外科、外科、内科、神経内科、リハビリテーション科、歯科
- 看護職員数: 保健師7名 看護師87名 准看護師16名
介護福祉士9名 看護補助者13名



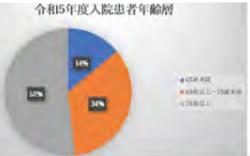
現状と課題

○現状: 平均在院日数(急性期一般病棟: 19日、地域包括ケア病棟: 29日)
令和5年度 整形手術件数: 1144件
令和7年4月より「認知症ケア加算3」算定開始予定
入院患者年齢層

令和2年入院患者年齢層



令和5年度入院患者年齢層



現状と課題

○課題

- ・当院では入院患者の年齢層が令和2年度高齢者**69%**(うち75歳以上**45%**)に対し、令和5年度**86%**(うち75歳以上**52%**)と入院患者の高齢化が進んでいる状況。
- ・高齢の入院患者が多く入院されるため、認知症を有する方や手術後、入院後にせん妄となる患者が多い。
- ・認知症やせん妄ケアに対する知識の不足し、患者への対応にバラつきがある。
- ・手術を含めた急性期医療を要する患者に対し、身体拘束をせざるを得ない状況があり、BPSDの悪化につながっているケースがある。

目標

1. 認知症、せん妄の基本を理解し、アセスメント方法やケアについて学ぶことができる
2. 身体拘束と倫理について学ぶことができる
3. 認知症ケア加算、せん妄ハイリスク患者加算算定の仕組みづくりができる

支援のスケジュール

開催	日程	研修会内容	研修参加人数	ラウンド実施部署
第1回	令和6年7月17日	認知症とは	20名	回復期リハビリテーション病棟
第2回	令和6年8月21日	認知症と認知症ケア加算	19名	回復期リハビリテーション病棟 地域包括ケア病棟
第3回	令和6年9月18日	症状の対応、ユマニチュード	16名	2階急性期一般病棟 地域包括ケア病棟
第4回	令和6年10月23日	せん妄とせん妄ハイリスク患者加算	20名	2階急性期一般病棟 3階急性期一般病棟
第5回	令和6年11月18日	身体拘束と倫理	15名	回復期リハビリテーション病棟

* 研修会を動画撮影させていただき、参加できなかったスタッフ(看護部、リハビリテーション科)へ、e-ラーニングによる伝達講習の実施を行った。伝達講習後に確認テストを実施し、100%の受講率を確認した。また、ラウンド報告書を作成し、教育委員会を通じ、各部署に配布し、周知に努めた。

ラウンド実施(4回目)

事例
92歳女性
右大腿骨転子部骨折にて手術し、術後4日目。入院時より大声や起き上がりなど、柵を乗り越えようとする姿勢あり。4点柵、体幹ベルト使用中。病識、入院していることは理解できている。テーブルに「池田記念病院に入院中」と書かれた紙が置いてあるが、患者から常に見えるところにはない。



指導内容

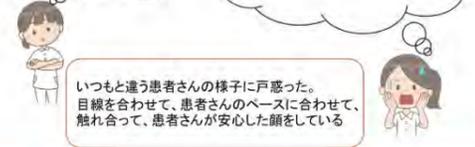
- ・「どうして起き上がろうとするのか？痛い？辛い？どこかに行きたい？」聞き入れてあげないと、状態は変わらないままである。リアリティオリエンテーションは何度も繰り返し伝えることが必要である。
- ・高齢者は睡眠の質が低いため、容易に不眠となる。日中の活動の促しや日光浴、また環境調整が必要になる初回に使用する睡眠薬はベンゾジアゼピン系でないのが望ましい。
- ・入院前の睡眠状態を確認する。
- ・焦燥感が続く患者さんも苦痛である。安心できる環境づくり(なじみの関係)が必要である。また、向精神薬の投与も有効かと考える

ラウンド時の私の心境・・・

いつも落ち着かない患者さんなのに、なんで？

・話が通じ合っている！
・自分の話を進んでいる！
・いつもより表情が穏やか！

いつもと違う患者さんの様子に戸惑った。目線を合わせて、患者さんのペースに合わせて、触れ合って、患者さんが安心した顔をしている



ラウンド、研修会の様子



支援を受けた後の心の変化

認知症の方の対応を考え直す良い機会になった

頻尿の患者さんへのアプローチを今すぐ実践したい

ユマニチュードを実践したい

安心感を与える関わりをしていきたい

身体拘束と倫理について改めて考えることができた

「誰が一番辛いのか？」と考えるようになった



今後の課題

- 支援により得た知識・ケアの定着
 - 定期的な勉強会の継続
 - マニュアルを作成し、充実していくこと
 - 事例検討会の実施
- 令和7年4月より「認知症ケア加算3」算定開始に向けた準備

最後に...

看護力向上支援事業に関わる機会をいただき
ありがとうございました

白河厚生総合病院 認知症看護認定看護師 小室真紀博
福島県看護協会 関係者の皆様
こころより感謝申し上げます
ありがとうございました



7)三春町立三春病院

施設名	三春町立三春病院	実施分野	脳卒中リハビリテーション看護
認定看護師	阿部 悠	所属施設	あづま脳神経外科病院

目 標

- 回復期リハビリテーション期における基礎知識(患者ケア、リハビリ時の留意点、多職種連携)について学ぶ
- ADLの支援技術や退院時の指導方法、退院調整について学び実施できる

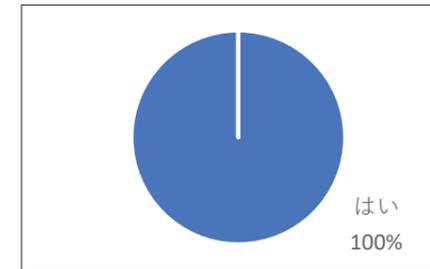
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/24	・担当者、看護部長との打ち合わせ ・施設内ラウンド ・研修会 ・退院支援困難事例の共有 ・次回打ち合わせ	「脳卒中リハビリテーション看護って何だろう～基礎編～」 参加人数 65名 (内動画視聴者44名)	①リハビリテーション看護、脳卒中リハビリテーション看護とは(基礎) 脳卒中患者の身体的・心理的側面について特徴をおさえる。 ②学んできたチーム医療と実際のチーム医療にギャップがある。 ADLの変更や、転倒時の問題点、対策などお互いが話し合っ てそれぞれの意見を言える関係にしていきたい。次回も参加したい。
第2回 8/21	・担当者との打ち合わせ ・研修会 ・退院支援、管理・病棟業務を情報共有 ・次回打ち合わせ ・アンケートをもとにした研修内容の検討	「脳卒中患者と家族との関わりについて」 参加人数 52名 (内動画視聴者33名)	①・第1回目内容の振り返り 脳卒中患者と家族との関わりについて 脳卒中患者・家族の特徴をおさえるとともに、困難事例をもとにした内容とした。 ・退院調整について情報共有 ②リハビリに取り組んでいる患者がより退院前の生活に近づけるよう、成功体験を積み重ねていく支援が大切と学ぶことができた。
第3回 9/18	・看護部長、担当者との打ち合わせ ・研修会 ・事例検討 ・病棟ラウンド(対象とコミュニケーション) ・次回打ち合わせ	「高次脳機能障害のある患者への支援」 参加人数 27名	①支援内容 高次脳機能障害のある患者への支援について 前回までのアンケートをもとにして、ワンポイントアドバイス ②アンケート内容に対するアドバイスを呈示してもらい、わかりやすかった。高次脳機能障害の症状は多彩なため、今回の勉強会で少しでも知識をつけることができた。
第4回 10/23	・担当者との打ち合わせ ・研修会 ・事例検討 ・病棟ラウンド ・次回打ち合わせ	「高次脳機能障害のある患者への支援②」 参加人数 13名	①今回訪問より星総合病院様への訪問となる。 ・高次脳機能障害のある患者への支援② 前回訪問時に伺った困難事例を含めて研修をすすめる。 ・病棟移動後の回復期リハビリテーション病棟の現状把握 ②脳疾患分野は苦手とするところだったが、今回をきっかけに学習していきたいと思った。高次脳機能障害の記憶障害や注意障害など、その人の症状の特徴を知れば対応の仕方もわかりやすくなると思う。排尿日誌の大切さを知った。
第5回 11/13	・担当者と打ち合わせ ・病棟カンファレンス参加(3事例の検討) ・研修会 ・振り返りの会 ・看護部長、看護教育管理者様へ挨拶	「多職種連携と退院支援、最終振り返り～退院支援と声掛けの技をますます磨いていこう～」 参加人数 10名	①多職種連携と退院支援についての基本 当院での多職種情報共有ツールについて説明した。 アンケート内容を含めた講義 研修会後にスタッフからの質問に対し応答形式をとる。 病棟カンファレンスへの参加 ②リハビリをするにあたり、病気前後のADL、家族の受容も変化し、その心理を理解し関わっていきたい。

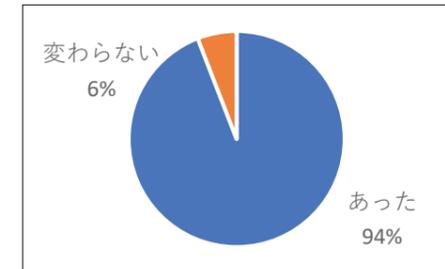
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：達成した

■今後の課題

- 令和6年10月の回復期リハビリテーション病棟病床編成に伴い、継続した学習環境の調整が重要と考える。

■職員の反応

- 「回復期リハビリテーションの基礎を学ぶ機会となった」「チームで行うリハビリの必要性や離床の進め方等を理解することができた」と様々な気づきを表現していた。受講を重ねる中で、学ぶことの喜びとして、「次回はいつですか、学べて楽しいです」と表現していた。学習効果を身近で感じ取ることができた。
- リハビリスタッフより「回復期リハビリテーションでのリハビリの意味を再確認できた」「離床と早期からのリハビリ介入は重要であることを再確認できた」「看護師の視点を確認できた」「臨床での対応を交えて説明されてわかりやすい」等意見が聞かれた。講義への興味関心は高く、参加者も作業療法士、理学療法士、言語聴覚士と多職種であった。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- 基礎部分から事例を通して学ぶことができ、スタッフの学ぶ意欲向上につなげることができた。業務に関しても別病院の方法を聞くことができ、移転に伴ってとても参考となった。

■困難であったこと

- 多職種交えながらディスカッションの機会が多く持ちたかったが、スタッフ含めた職種を巻き込んだ実施や、病棟全体での働きかけ方が難しいと感じた。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- 関わりに悩んでいた症状などが疾患によるものと学び、スタッフ一人ひとりが声かけや関わり方を工夫するようになった。また、講義資料を繰り返し学ぶ姿勢もみられた。移転に伴い、あづま脳神経外科病院での業務内容や多職種との連携方法など情報いただいたものを参考に、業務見直しを図ることができた。

(3)その他

- 事業日程や講義内容について、細やかに希望を聞いていただき、調整していただけたことに感謝申し上げます。特に講義内容については、受講者の意見をふまえて、講義内容を構築していただく等、受講者の興味関心を重視した内容であった。学習環境がいかに重要であるかを考える機会となった。今後も、学ぶ機会を継続していきたいと考えている。

令和6年度 看護力向上支援事業報告会

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の支援を受けて
町立三春病院 原裕絵



施設概要



- ・病床数 86床
一般病棟 46床
回復期リハビリテーション病棟 40床
(対象疾患:脳卒中、骨折、廃用など)
- ・職員数 計117名
看護師45名、看護助手5名、介護福祉士6名
リハビリ30名、社会福祉士3名
- ・回復期リハビリテーション病棟職員の平均年齢 48歳
- ・病床平均稼働率 93%
- ・10月より回復期リハビリテーション病棟が星総合病院へ移転
(現在、病床数30床で運用)

当院の現状と問題点



- ・教育体制が整っておらず、リハビリテーション看護の専門知識を学ぶ機会が少ない。
- ・患者のQOLを向上させるために、多職種間でどのような連携を行うべきが難しさを感じている。
- ・退院調整に時間がかかり、円滑に進められないケースがある。
- ・病床稼働率を維持する為に広い範囲での業務改善を実施していたが、自分自身がリハビリテーション病棟の経験が浅く、改善案に悩むことがあった。




目標



- ・脳卒中リハビリテーション看護の基礎知識と多職種の連携方法について学ぶ事ができる。
- ・脳卒中患者と家族への関わり方を学び、生かすことができる。
- ・退院時の指導方法や退院調整の進め方について学ぶことができる。



支援内容



- ・脳卒中リハビリテーション看護に関する講義
- ・多職種カンファレンスへの参加
- ・アンケート調査の実施
アンケート結果を元に講義内容を追加検討。
- ・事例検討
関わり方に迷う事例に対し助言を頂き、病棟内で共有する。



講義スケジュール



	研修会内容
第一回目	脳卒中リハビリテーション看護の基礎
第二回目	脳卒中患者と家族との関わり
第三回目	高次脳機能障害のある患者への支援について①
第四回目	高次脳機能障害のある患者への支援について②
第五回目	多職種連携と退院支援・振り返り

支援を受けた結果～講義～

- ・研修会動画を参加できなかったスタッフや他病棟のスタッフも視聴できるようにした。
→脳外病棟の経験のないスタッフがほとんどであり、基礎知識を学ぶ事ができる機会となった。
→ケアワーカーにも関わり方のポイントなどを学ぶ機会となった。
- ・脳卒中関連の看護や知識など「こういった部分も知りたい」と多く質問が上がるようになった。
→質問内容や実際の患者の事例を講義内容に入れる事で、スタッフ自ら講義資料を見返し照らし合わせながら振り返る姿が見られた。

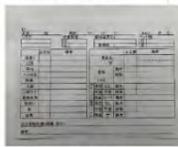
支援を受けた結果～カンファレンス～

- ・実際に関わり方や連携方法で悩む事例に対しアドバイスいただき、その後の病棟内での患者への関わりなどを統一できた。
- ・カンファレンス参加を通して、当院での多職種連携の様子も見ていただき、脳卒中リハビリテーションの専門的目線での意見を頂くことで、リハビリ含め学ぶ機会となった。
また、事例に対するディスカッションをすることができた。



支援を受けた結果～業務改善～

- ・業務改善に生かすため、あづま脳神経外科病院での業務例と当院の業務実際の意見交換をさせていただいた。
→ADL表の活用
→リーダー板や医師との連携方法について
→カンファレンス頻度や方法について
→日常生活動作(食事準備から洗面への誘導方法など)の流れと方法について
- ・10月に星総合病院へ移転することが決まり、業務を見直し・作成する上で参考にすることができた。



今後の課題



- ・カンファレンスを進めるにあたって、進行や意見を出すスタッフが病床コントロールする管理職が多く、スタッフ自ら進んでカンファレンスの場で発言しようとする人が少ない。
→人数の揃うカンファレンスだけでなく、個別で実施したミニカンファレンス等も記録に残せるように指導していく。
→カンファレンスの機会を大切に、スタッフの自発性を高め意見を引き出せるような指導を実施していく。



おわりに

今までリハビリテーション看護に対する研修を受ける機会がほとんどなかったが、リハビリテーション看護を学びたいスタッフは多くいることを知ることができた。講義で基礎知識から学ぶ事ができ、とても楽しく研修を受けることができた。

また、業務改善に関してもアドバイスや意見を頂くことができ、病棟移転の際の業務作成にとっても参考にすることができた。

今回の学びを今後の業務にも活かして取り組んでいきたい。



謝辞

今回の看護力向上支援事業に関わる機会を頂き、ありがとうございました。

あづま脳神経外科病院 脳卒中リハビリテーション認定看護師 二瓶様
福島県看護協会 藤倉様
町立三春病院 崎山看護部長様

・ご支援いただき、心より感謝申し上げます。



8)清水病院

施設名	清水病院	実施分野	精神科看護
認定看護師	湯田 文彦	所属施設	医療法人咋雲会 地域ケア事業部兼飯塚病院

目標

清水病院看護部の目標

- ・全スタッフが自分の看護を振り返り、精神科看護のあり方を考え、新病棟に向けて体制を整備できる。
- 支援者としての目標
- ・清水病院看護部の「[迷い]を整理できる」ことを支援できる。

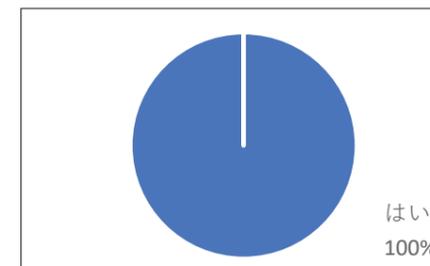
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/3	1. 担当者打ち合わせ 2. 研修会の実施 3. 病棟ラウンド 4. 振り返り、意見交換、次回の打ち合わせ	共通テーマ：実施体制の整備について ①「実施体制の整備について」共有する	①次年度の移転を見据え、清水病院の看護とは、その柱は何か、また看護提供方式を考えてみようといった内容を組織全体で検討を進めていく為の情報を主に提供した。 ②患者や精神科医療への病院全体の認識が変わるきっかけになるように思いました。病棟でできていないこと、これからの課題を考えるきっかけになった。
第2回 8/23	1. 第1回後の改善点の報告及び担当者打ち合わせ 2. 研修会の実施 3. 病棟ラウンド 4. 振り返り、意見交換、次回の打ち合わせ	共通テーマ：実施体制の整備について ②「意思決定支援」	①意思決定支援について飯塚病院での取り組みを紹介、他、SDM（共有意思決定支援）・セルフケアについて説明した。次回へのつなぎとして行動制限に関する内容を簡単に情報提供した。 ②患者参画の看護計画がどのようなものなのか知ることができたが、具体的に提示くださりよくわかった。私たちは何を大事に看護すべきなのか目の覚めたような感覚である。当院でも是非取り入れたいと思った。
第3回 9/13	1. 第2回後の改善点の報告及び追加の質問と担当者打ち合わせ 2. 研修会の実施 3. 病棟ラウンド 4. 振り返り、意見交換、次回の打ち合わせ	共通テーマ：実施体制の整備について ③「行動制限最小化対策－制約等－」	①行動制限最小化対策として法律・診療報酬等から説明。それに合わせ虐待対応についても説明。自施設の行動制限率等を計算してもらい、全国・福島県の平均と対比し、数分そのことについて意見交換してもらい続きを病棟等で行っていただくこととした。拘束帯の使い方に誤りがあったので指導し、他社の拘束帯について情報提供した。 ②「コーヒーストップに行ったらあだ名で呼ばれることがあるか」というワードが心に刺さりました。社会の物差しで捉えていきたい。
第4回 9/30	1. 第3回後の改善点の報告及び追加の質問と担当者打ち合わせ 2. 管理者を主に「精神科看護倫理実践テキスト」に基づく研修方法の説明と「演習部分」の実施 3. 研修会の実施 4. 質問対応	共通テーマ：実施体制の整備について ④「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」	①主担当者に「精神科看護倫理実践テキスト」に基づく研修方法の説明と「演習部分」の実施を通してファシリテーション方法を指導。「にも包括」とそれに関連する情報を提供した。 ②今まで「にも包括」について理解できていなかった部分にメスを入れていただいたという印象です。福島市の精神科医療などへの取り組みについて知ることができた。またそれを踏まえた上で何をしなければいけないか考えることができた。地域定着など、作業療法にも関係するところだった。
第5回 10/10	1. 振り返りの会 2. 第2病棟で「精神科看護倫理実践テキスト」の「演習部分」の実施 3. 質問対応 4. 研修会の実施 5. 腹部拘束帯の固定方法	共通テーマ：実施体制の整備について ⑤「行動制限最小化対策－運用等－」	①2病棟ナースステーションで「精神科看護倫理実践テキスト」の「演習部分」を実施した。「行動制限最小化対策」として飯塚病院での取組を紹介。リクエストのあった隔離室のワイヤレスナースコールについても紹介した。長期の身体拘束の解除に向けて主治医との交渉方法について質問を受け助言した。また、腹部拘束帯の固定について質問を受け現場で工夫の方法を指導した。 ②行動制限、抑制について、ニュースを例に説明があったこと。また、飯塚病院を例にお話しただいて、わかりやすかった。心電図や脳波検査時に患者さんの状況や気持ちに寄り添った対応に努めたいと思った。

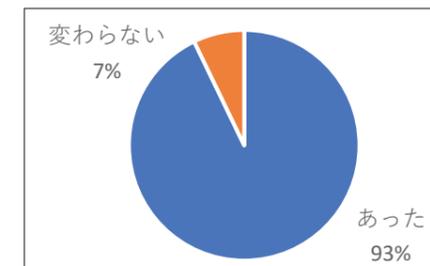
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：達成した

■今後の課題

- ・看護部として体制を作っていくことが課題である。各自の意識が変わっても体制が整っていないとまた消滅しかねない。
- ・看護部方針から目標、業務、なども大きく方向転換する必要がある。
- ・「にも包括」を意識した精神科作りを多職種連携し確立していく。

■職員の反応(抜粋)

- ・自部署が遅れていると感じた。このままでは患者に申し訳ないので自分たちが変わっていかなくてはならないとの声が上がっている。
- ・隔離、拘束の考え方に変化が出た。4点柵やミトンについても倫理的な面から考えられるようになった。
- ・患者参画の看護計画を是非とも実行したい。
- ・精神保健福祉法改正に伴う勉強会が参考になった(「拘束のお知らせ」文面を一部変更した)。
- ・新しい情報があり助かった。精神科はもっと地域に行くべきだ。

(2)担当者のご感想、ご意見(抜粋)

■良かったこと

- ・改めて患者の意思を中心に考えなければいけないと感じた。身体拘束や隔離の最小化、撤廃に向けて取り組んでいきたい。虐待や倫理的問題にも敏感となった。

■困難であったこと

- ・リーダーシップの発揮、スタッフ全体の理解が必要であると感じている。また、ミトンやつなぎ、4点柵の問題は理解しているが、代替案に苦慮している。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・患者の意思が中心となる協働主義が大切だと意識が変化した。身体拘束の抑制帯に関しては、患者に合わせて抑制帯を適切な位置にセットするようになってきた。虐待や倫理的問題にも敏感となった。「あだ名呼び、～ちゃん呼び」などもなくなってきており、心理的虐待や経済的虐待なども含め幅広くスタッフ全体が理解していると感じられている。

(3)その他

- ・「精神科看護への迷い」と指摘を受け、それが当院にとって有意義な迷いだったと感じている。迷いがまったくなくなったわけではないが一筋の光となり道が見えた。これまでの情報を整理し新しい精神科を作っていきたいと思う。

令和6年度
看護力向上支援事業報告
精神科認定看護師の支援を受けて

令和6年 12月12日(木)
一般財団法人大原記念財団 清水病院
高野 勇宜

当院の概要、問題点

<概要>

- ・病棟数:2病棟 ・病床数:182床 ・常勤医師数:4名
- ・看護職員数:53名
- ・令和7年度、5月に大原医療センターに移転予定

<問題点>

- ・管理的な側面が根強く残っており、**リカバリー志向**での患者中心の精神科看護に不足がある。

目標、支援内容

<目標>

- ・院内の全職員が、「患者参画」などの精神科看護のあり方を理解する。
- ・パターンナリズムから脱却し、患者の意思やニーズを尊重した看護ができる。

<支援内容>

- ・全5回の勉強会、病棟ラウンド

認定看護師の支援を受け、変化したこと

①「倫理」

- ・患者に対して、「～ちゃん」、「～くん」と呼んだり、患者の言動をわざと真似したりするような行動をする職員がいた。
- ・認定看護師からの倫理、虐待の勉強会で患者本人が望まない場合や、社会一般的に不自然と捉えられた場合、**心理的虐待**に該当することを教えていただいた。
- ・職員一人一人が患者の「人権」を振り返る機会となり、以前と比較し、上記の呼称を減らすことができた。

認定看護師の支援を受け、変化したこと

②「看護計画」(準備期)

- ・看護師側からみた一方的な問題志向型の看護計画のみ。
- ・**患者参画型**の、患者の意思やニーズを重要視した看護計画への移行中である。
- ・患者本人の目線で物事を考え、定期的にコミュニケーションをとり、患者と看護師間の信頼関係の構築を図っていく。
- ・日頃のケアや意思決定の支援、退院支援につなげて、**患者満足度向上**を図っていく。

様の看護計画 年 月 日

あなたが困っていること・実現したいことはなんですか

いつまでに、どのようになればよいと考えますか

そのためにあなたは何をすればよいですか

私たちは何をすればよいですか

他の人に何をしてもらえばよいですか

患者様サイン

担当看護師サイン

評価と反省 (年 月 日) サイン (/ /)

評価と反省 (年 月 日) サイン (/ /)

評価と反省 (年 月 日) サイン (/ /)

評価と反省 (年 月 日) サイン (/ /)

認定看護師の支援を受け、変化したこと

③「行動制限」

- ・当院は現在まで隔離や身体的拘束の最小化には努めていたが、**ミトン**や**介護衣**、**4点柵**に関しては、漫然と行われていた。
- ・広義の行動制限に抵触すること、最小化を周知した。
- ・その結果、ミトンはNGTの固定位置を工夫する、介護衣は就寝前の排泄を促す、4点柵は中央に置くなどして、1つの病棟で4点柵の**使用0件**、ミトンは6件から4件、介護衣は4件から2件と減少させることができた。

認定看護師の支援を受け、変化したこと

④「買い物」

- ・数十年前に閉鎖病棟の患者が売店で暴れたとの理由で、閉鎖病棟の患者は買物には行けず、家族からの差し入れが看護師の代理行為でしか購入できなかった。
- ・勉強会で、患者の**自己決定権**の重要性について周知し、1つの病棟で閉鎖病棟の患者の売店購入禁止ルールを撤廃した。患者と主治医、受け持ち看護師がよく話し、上限金額などを決めるなどして、**患者自身**が目で見、手に取って**買える**ようにした。その結果、患者から喜びの声が聞かれている。

認定看護師の支援を受け、変化したこと

⑤「職員アンケート」

私は患者さんの思いを聴いている

支援前	5	40	34	9	1
支援後	5	41	23	6	6

私は患者さんが何を望んでいるのか知っている

支援前	5	32	34	12	2
支援後	4	35	28	10	3

認定看護師の支援を受け、変化したこと

⑤「職員アンケート」

医療者は患者さんに指導的な立場で接したほうがいい

支援前	5	24	34	17	6
支援後	5	30	22	15	6

医療者は患者に十分な説明をし自己決定できるようにしている

支援前	2	13	7	4	2
支援後	2	13	5	2	2

明確になった課題

- ・今回の支援を受け、「**患者参画**」の重要性を学び、私たち看護職がパターンナリズムで関わっていたことを再認識することができた。
- <課題>
- ・患者さんを地域で生活する人と捉え、**にも包括**を意識した精神科作りを多職種連携し、確立していく。
- ・全病棟でミトンや介護衣、4点柵の使用0件にする。

継続していくために

- ・看護部として、継続的に運用できる**リカバリー志向**での**システム**の作成を行う。
- ・院外での定期的な研修会参加と、院内勉強会を開催し、職員全員で患者の人権を擁護し、意思を尊重する関わり方を広めていく。

9)村上病院

施設名	村上病院	実施分野	精神科看護
認定看護師	横山 大輔	所属施設	長橋病院

目 標

- ・精神科における倫理的課題を理解し看護実践につなげることができる
- ・職員一人一人の倫理的意識(感受性)を高めることができる
- ・行動制限の現状を理解し行動制限最小化に取り組むことができる(達成済み)

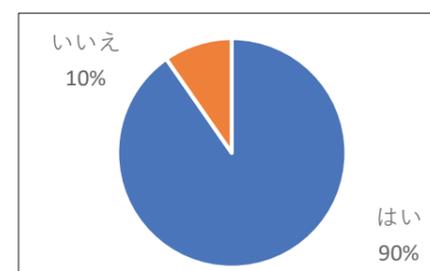
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/9	・支援内容の確認、打合せ ・研修会 ・病棟ラウンド ・担当者コンサルテーション ・反省会・次回の打合せ	「精神科におけるの接遇を考える」 参加人数：46名	①長期入院患者が多く身近な存在になりすぎており、言葉遣いや対応において課題があるという現状を踏まえ、看護サービスの基本となる接遇について振り返る研修会とした。 病棟ラウンド：認知症患者へはユマニチュードを実践しているとのことで、スタッフの対応について見学。妄想・帰宅願望を訴える患者と接する機会があり、認知症の病態・疾患の理解を看護の工夫にすることを助言。 ②患者に心地よく感じてもらえるサービスができるように態度や言葉遣いを気を付けていきたい。
第2回 8/2	・支援内容の確認、打合せ ・研修会 ・病棟ラウンド ・担当者コンサルテーション ・反省会・次回の打合せ	「倫理的感受性を高めるには」 参加人数：33名	①倫理について、まずは一般社会における例題を基に考え、次に看護職という専門職の視点から倫理綱領を軸に看護倫理についてお話をいただいた。精神科における倫理の問題・影響因子を提示し、その問題に向けて自分たちがどう行動すればよいかを確認した。倫理的感受性についてグループでディスカッションを実施。個人の倫理的感受性が高まり、組織文化として醸成していくことが重要であることを説明した。 ②今まで倫理的感受性を感覚的なものと捉えていたが、言語化できて良かった。
第3回 9/10	・支援内容の確認、打合せ ・研修会 ・行動制限最小化委員会参加 ・職員からの質問対応 ・反省会・次回の打合せ	「モヤモヤMEMOを活用し倫理的感受性を磨いてみよう」 参加人数：37名	①モヤモヤMEMOの目的・使い方について説明し各自モヤモヤMEMOに記載していただいた。普段から気がかりになったことやモヤモヤしたことを記載し自己の振り返りを行うことで、倫理的感受性を磨いていくことが必要であることを助言行動制限の継続のアセスメントスコアシートの活用を提案してみた。行動制限率を毎日0時の段階で数値化し、また、行動制限平均実施日数も併せて数値化しておくこと、行動制限最小化の目標設定にも有効である。 ②モヤモヤMEMOを活用していきたい。自分の振り返りを行うことができる。
第4回 10/10	・支援内容の確認、打合せ ・研修会 ・職員コンサルテーション ・反省会・次回の打合せ	「モヤモヤMEMOを活用し倫理的感受性を磨いてみよう」グループワーク編 参加人数：34名	①前回の研修会で紹介したモヤモヤMEMOの目的・使い方を基にグループワークを実施し。前回の支援日から本日までのモヤモヤをメンバー相互で話し合い、他者の考えや価値観にふれながら、個人の見方を広げ、倫理についての考え方を深めることができた。また、個々の対応について振り返ることができたのではないかと考える。今後も倫理的感受性を高めるために継続して行うことが望まれる。 ②自分のモヤモヤに気づき、どのように対応するかを皆と考えることで様々な視点を獲得することができた。
第5回 11/28	協会担当者・看護部長・担当者とzoomを使用し振り返り会を実施		①前回までの支援について協会担当者・支援先の看護部長及び担当者様と振り返りを行い、目標に対しての成果の確認、今後継続課題について助言をさせていただいた。また、報告会での発表資料の内容について確認し修正・追記させていただいた。第5回目の支援が感染対策上困難であったため、次年度のフォローアップ研修で実施したいと考えている。併せて継続課題についてもフォローアップ研修時に助言をさせていただければと考える。

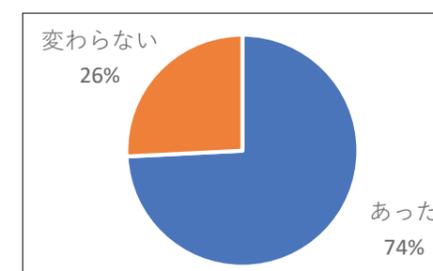
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・倫理カンファレンスを業務の中で行い看護に活かしていくこと
- ・常に患者に相対している時の自分の言動を振り返ることができるようになること
- ・行動制限継続のアセスメントにスコアシートを活用する

■職員の反応

- ・倫理的に問題では…と感じた時に他の人にどう伝え、みんなで考えていく機会にするかをモヤモヤMEMOを書くことで個々が少し整理できたのではないかと。
- ・他職種と自分の部署のモヤモヤを話す機会は少ないので、ある意味新鮮で楽しかった。倫理的感受性ということがこれほどまでに取りざたされていることに気づくことができ良かった。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・支援をしていただいたことでスタッフ各個人の倫理的感受性が少しずつ高まった。
- ・患者に対しての態度や言葉遣いが支援を受ける前より柔らかくなり、良くなってきている。

■困難であったこと

- ・研修について、なかなか過半数の人数の参加が難しい。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・看護力向上支援事業を受けたことで、各スタッフ自身が今の態度や言葉遣いが正しかったのか考え、振り返ることが少しずつみられ始めた。
- ・自ら振り返り業務に反映できている部分もある。
- ・スタッフ自身も以前に比べゆとりを持つようになってきた。

(3)その他

- ・倫理的意識を高めるという問題は、一朝一夕にできるものではなくこれからもいろいろな場面で問題になってくると思います。今後ともよろしく願いいたします。
- ・定期的に外部講師という形で来ていただきたいです。



令和6年度
看護力向上支援事業報告
精神科認定看護師の支援を受けて

令和6年12月12日(木)
医療法人 慈心会 村上病院
菅野利道・丸谷和也

村上病院の概要

診療科目 精神科 心療内科 内科

病床数 認知症治療病棟 60床
精神療養病棟 44床

職員数 医師3人 看護職45人 作業療法士5人
看護補助者・助手18人 精神保健福祉士4人
心理士1人 薬剤師2人 検査技師1人 栄養士2人
調理員8人 事務職11人

当院の現状について

- ▶ 長期入院の患者さんが多く、退院先が見つからないうちに認知機能低下もきたし、受け入れ先が困難になっている。
- ▶ 虐待防止が叫ばれている中で、当院でも虐待と思われる事案が発生。虐待防止マニュアルの整備、発生時のフローチャート等の見直しや、チェックリストの活用などが手探りの状態。
- ▶ 行動制限に対し毎週見直しを行っているが、転倒リスクを考えたとき、なかなか解除することができない状態。

問題点と課題について

- 長期入院の患者さんとの関係性
- スタッフ各個人の倫理的感受性のばらつき
- スタッフが高齢化のため、若い患者さんとの関係作り
- 行動制限最小化への取り組み方や、観察・記録の評価
- 各種マニュアルのフローチャート等が正しいのか？
- スタッフへの暴力があった場合の振り返り方があっているか？

↓

支援によって
スタッフ各個人のスキルアップを目指す！

目標

- 精神科における倫理的課題を理解し看護実践に繋げる事ができる。
- 職員一人一人の倫理的意識（感受性）を高める事ができる。
- 行動制限の現状を理解し行動制限最小化に取り組む事ができる。

⇒ 行動制限について、精神科認定看護師と病棟ラウンドを行い、行動制限をしている患者様は1名。
ほぼ達成されていたとの事に今回は除外とした。



支援内容

	研修内容	支援内容
1回目	勉強会・病棟ラウンド (精神科におけるの選考を考える)	・掲示物の確認 ・認知症患者への対応 ・行動制限解除の基準について
2回目	勉強会・デイケアラウンド (倫理的感受性を高めるには) アンケート記入	・虐待防止マニュアルの確認 ・他マニュアル、フローチャートの確認
3回目	勉強会 (モヤモヤMEMOを活用し 倫理的感受性を磨いていきましょう) 行動制限最小化委員会出席	・行動制限最小化委員会の状況と助言
4回目	勉強会・個別の質疑応答 (前回の続き・グループワーク編)	・個別に質問があったスタッフへの回答
5回目	新型コロナウイルスのクラスター発生のため中止	フォローアップ研修で実施予定

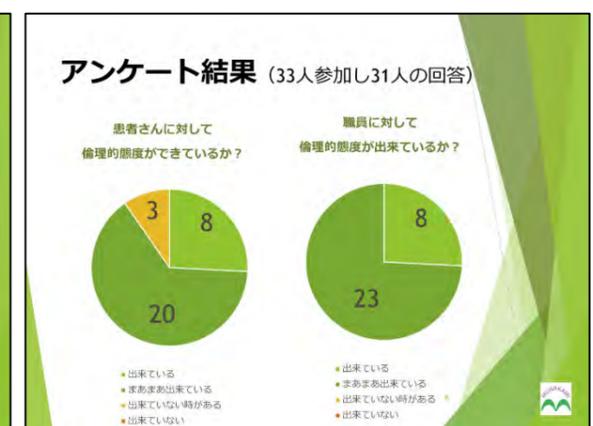
病院独自のアンケート内容

○ 患者さんに対して倫理的態度（年齢に沿った言葉遣いや態度）が出来ていますか？

① 出来ている
② まあまあ出来ている
③ 出来ていない時がある
④ 出来ていない

○ 職員に対して倫理的態度（言葉遣いや態度）が出来ていますか？

① 出来ている
② まあまあ出来ている
③ 出来ていない時がある
④ 出来ていない



支援結果 1

- 各種マニュアルやフローチャート・チェックリスト等の確認
▶ マニュアルは詳細に作成してあるとの評価だが、全職員への周知方法や遵守できる体制方法が不十分。
- 4回の勉強会
▶ 各職員が虐待に対する意識が向上し、日々の業務に少しずつ反映している。
患者さんやスタッフ同士でも、態度や言葉遣いに注意する姿や振り返りをする方もいた。



支援結果 2

- 各スタッフ自身も以前に比べ、気持ちのゆとりを持つことができるようになっており、患者さんが不穏状態になる回数も低下している。
- 倫理的感受性が以前に比べ向上し、日々の業務に反映している。



今後の課題・継続していくためには

- 各種マニュアルについて、全職員が周知できる仕組みの作成。
- 各スタッフが倫理的感受性を意識しながら看護実践が継続してできる環境作り。
- 倫理的感受性に関してのアンケートやチェックリストを作成し定期的に評価。
- 勉強会や研修会の実施。
参加できない方は媒体を利用。
- もやっとカンファレンスを定期的に実施。

10) 磐梯町介護老人保健施設りんどう

施設名	磐梯町介護老人保健施設 りんどう	実施分野	精神科看護
認定看護師	岩淵 いずみ	所属施設	会津西病院

目 標

- ・精神科看護の基礎知識を習得する
- ・精神症状の理解を深め、利用者様・患者様に合ったケアを考えることができる

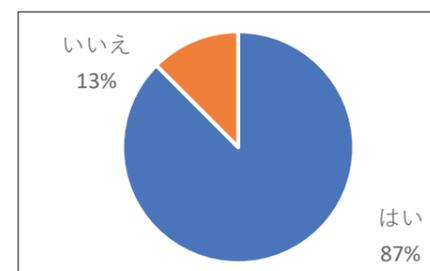
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 8/3	・施設内ラウンド ・研修会 ・質疑応答 ・目標の設定 ・今後の打ち合わせ	「精神症状について 1」 講義形式 参加者 8名	①精神症状のうち「意識」「知覚」「思考」「感情」「意思や欲動」について講義をした。 ②疾患があつてのせん妄だったり、傾眠だったりすることを、通常疾患なしに使用していたことに気づいた。身体所見と精神疾患と合わせて考え対処したい。現在、施設内で悩んでいたケースに当てはまる部分があつた。
第2回 9/7	・打ち合わせ ・研修会 ・質疑応答 ・現状の把握 ・今後の打ち合わせ	「精神症状について 2」 講義形式 参加者 6名	①精神症状のうち「自我意識」「記憶」「見当識」「睡眠」「知能」「神経心理学的所見」「パーソナリティや性格」について講義をした。「睡眠薬」について講義をした。 ②睡眠で悩んでいる利用者や同僚や家族に説明できる。通所の利用者には多くは当てはまらないが、自分の勉強になった。
第3回 9/28	・打ち合わせ ・研修会 ・質疑応答 ・現状の把握 ・今後の打ち合わせ	「関係構築とコミュニケーション」 講義形式 参加者 6名	①患者—看護師関係とその構築について講義をした。コミュニケーションについて講義をした。心理的安全性について講義をした。 ②対応で活用できると感じた。心理的安全性のある風土作りを意識して、日々の業務に取り組んでいきたい。
第4回 10/12	・打ち合わせ ・研修会 ・質疑応答 ・現状の把握 ・今後の打ち合わせ ・2階一般棟のラウンド	「看護倫理・虐待・権利擁護」 講義形式 参加者 5名	①日本精神科看護協会が出している12の倫理指針についての解説法律に基づいた虐待防止について講義をした。 ②人を相手にする、命を預かる職種として倫理は重要な分野だと思う。虐待は介護士にも話していきたい。
第5回 11/9	・打ち合わせ ・振り返り会 ・研修会 ・質疑応答 ・報告会に向けてのまとめと打ち合わせ	「高次脳機能障害の理解」 「事例検討会」 講義形式 ディスカッション 参加者 8名	①各部門から計10事例いただいた。事例内容や以前の現状把握の中で「高次脳機能障害」について困っているようだったので、まず「高次脳機能障害」の講義をし、その後事例を一つ一つ見ながらディスカッションをした。 ②業務に繋がる事が多く、わかりやすかった。高次脳機能障害について少し理解ができた。現在困っていることに対するの助言・指導があつた。

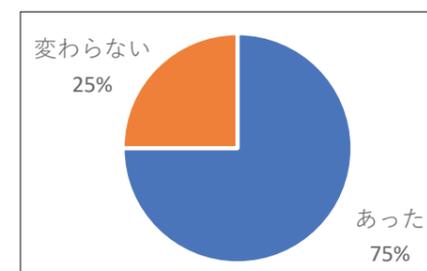
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・職員全員への周知、学び得たことを職員個々人が考えて行動できるようになること。
- ・職員によっては多職種との関わりの中で意見が出せない時も度々見受けられる為、今回の講義を通して多職種連携を深め、利用者様・患者様に適切なケアを提供できるようになればと思います。

■職員の反応

- ・現在・過去に関わつたケース含め、疑問や問題点、関わり方についてなど積極的に講師に質問をしていました。精神科看護の分野に興味を持ち、積極的になった看護職員が増えました。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・精神看護を学ぶことで、利用者様や患者様の行動や言動とも結びつけることができ、理解を深めることができました。
- ・精神看護という分野に興味を持っているスタッフも多く、業務の関係で研修に参加できなかったスタッフからも資料が欲しい等の意見もいただけた。
- ・その都度、質問等にも的確に答えていただき、その場で疑問解決ができた。
- ・「共通言語を持つ」という部分では実際に現場でも徐々に活用できるようになっている。

■困難であったこと

- ・業務の関係により研修会について、5回通して参加できたスタッフが少なかった。
- ・予め、資料を参加者に配布し予習をしたうえで参加してもらえれば良かった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・「共通言語を持つ」という部分では研修に参加したスタッフの中で実際に活用している場面がみられる。
- ・現時点では他スタッフへのフィードバックは不十分だが、興味を持っているスタッフも多いため、今後院内研修を活用し継続して取り組んでいきたい。

(3)その他

- ・精神科看護の基礎知識を主とした計5回の講義でしたが、内容も理解しやすくわかりやすかったです。今後、また機会があれば応用編など精神科看護についての講義を依頼できればと思います。

令和6年度 看護力向上支援事業 報告

精神科看護認定看護師の支援を受けて

磐梯町保健医療福祉センター瑠璃の里
看護師 谷 亜希子

施設概要

- ▶ 福島県会津盆地の北東部、霊峰・磐梯山の麓に位置する当センターは、磐梯町が地域医療を中心に保健医療福祉サービスを総合的に推進するために、デイサービスセンター、診療所、介護老人保健施設からなる複合施設
- ▶ 有床診療所 医療センター 病棟（19床）・外来・歯科
- ▶ 介護老人保健施設りんどう（一般棟56床、認知棟44床）
- ▶ 通所介護
- ▶ 通所リハビリテーション
- ▶ 居宅介護支援事業所
- ▶ 地域包括支援センター



問題点

- ▶ スタッフの精神科看護についての基本的理解が不足している。
- ▶ 精神科看護を通しての利用者様、患者様への対応の仕方に統一性がない。

目標

- ▶ 精神科看護の基礎知識を習得する。
- ▶ 精神症状の理解を深め、利用者様・患者様に合ったケアを考えることができる。

支援内容

日程	支援内容
第1回 8月3日	精神症状について 院内ラウンド
第2回 9月7日	精神症状について
第3回 9月28日	関係性の構築とコミュニケーション
第4回 10月12日	看護倫理・虐待・権利擁護
第5回 11月9日	高次脳機能障害の理解 事例検討会（当施設より10例）

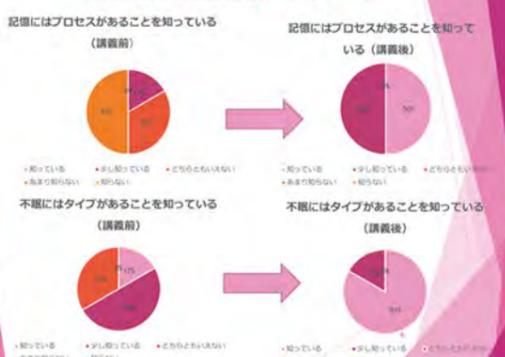
2回目 理解度アンケート

記憶にはプロセスがあることを知っている

記憶にはプロセスがあることを知っている

不眠にはタイプがあることを知っている

不眠にはタイプがあることを知っている



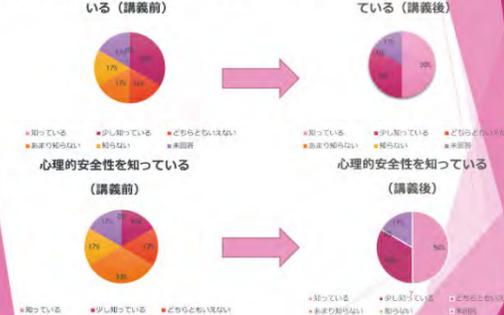
3回目 理解度アンケート

コミュニケーションの3つの技能を知っている

コミュニケーションの3つの技能を知っている

心理的安全性を知っている

心理的安全性を知っている



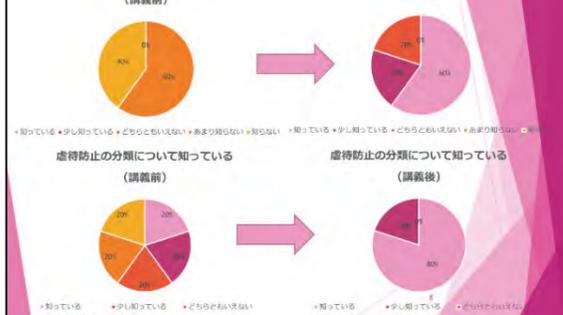
4回目 理解度アンケート

12の倫理指針を知っている

12の倫理指針を知っている

虐待防止の分類について知っている

虐待防止の分類について知っている



5回目 理解度アンケート

「精神科看護の基礎知識を習得する」についてどの程度達成できましたか？

「精神症状の理解を深め、利用者様・患者様に合ったケアを考えることができる」についてどの程度達成できましたか？

平均72.50%



研修を終了して

- ▶ 今回、精神科看護の「基礎」の部分を中心に支援をお願いし、学びを深めることが出来た。
- ▶ 新たに精神科看護に興味を持つきっかけになった。
- ▶ 今後、患者様や利用者様の行動等で問題が起きた際には、今回学んだ内容を振り返る事で状態把握が出来、適切なケアに繋がる。
- ▶ 利用者様、患者様のカンファレンスの際にも大いに活用が出来る。
- ▶ 「共通言語を持つ」という部分では実際に現場でも徐々に活用できるようになっている。

今後の課題

- ▶ 今回学んだ内容を全職員にどうフィードバックしていくか？

介護老人保健施設りんどう
介護老人保健施設では毎月全体会があり、その中で勉強会の年間スケジュールを組み取り入れていく。今回学んだ内容を来年度のスケジュールに組み込み、研修に参加しなかったスタッフへも周知していく。

医療センター
毎月病棟会を開いている。そこで勉強会の枠を取り、フィードバックしていく。

その他
興味を持っていたが勤務の関係で参加できなかったスタッフに関しては、資料を配布。（実行済み）カンファレンス等に今回の資料を活用する。（実行済み）

ご清聴ありがとうございました



11)大町病院

施設名	大町病院	実施分野	透析(腎不全)看護
認定看護師	小山 延之	所属施設	常磐病院

目 標

- ・フットチェックの実践ができ、患者が足に関心を持つことができる
- ・透析中の血液循環が減少する要因を知り、血圧が低下した時の対処法を理解することができる
- ・透析患者の気持ちを考えた、根拠に基づく食事指導を実践することができる

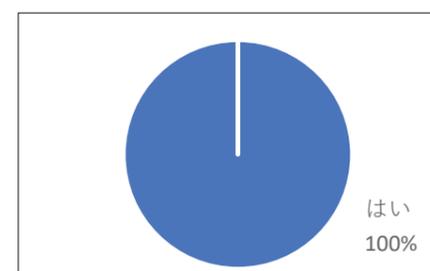
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/11	・打ち合わせ ・現場と課題の共有 ・目標の確認 ・患者さんへのご挨拶 ・フットケアの実践	「腎不全看護とは」 参加人数 8人	①関係作りが難しい患者への対応として、生活背景を知ることや言葉の意味を理解することが重要であることを共有した。私の体験談も交えながら理解を深めていく内容とした。また、下肢切断後の患者や足に傷を作った患者がいたので、フットケアの実践を行った。 ②透析患者の思いを参考に今後接していきたい。
第2回 8/1	・透析実施事項の確認 ・管理栄養士と面談 ・患者の自宅での生活状況の確認 ・新人看護師の現状把握	「透析患者へのフットケアの必要性」 参加人数 17人	①透析室での栄養指導は看護師が実施していた。しかし、医師からの栄養オーダーはなく管理栄養士の介入もない状況であったので、今後の栄養指導のあり方について提案を行った。また、自宅で足をぶつけ表皮剥離した患者への対応がされていないため、アプローチの仕方を共有した。 ②フットケアを実施する環境になっていけば患者の予後改善に貢献していける。
第3回 9/5	・患者挨拶と状態観察 ・透析レポート活用方法の確認 ・透析室看護師とフットケアの実践	「ドライエイトについて」 参加人数 8人	①ドライエイト設定がなぜ必要となるのか、どのようにすれば理解できるのかを一緒に考えていった。また、フットケア実践を一緒にいながら、患者が足に関心を抱いてもらえるような関係作りを考えていった。 ②今まで行ってきたことの根拠がはっきりした。
第4回 10/3	・新人看護師さんと患者との関わりや現状について話し合い	「透析関連血圧を知ることと患者対応につなげる」 参加人数 10人	①血圧低下時の対応についての現状確認と、不安な内容についてアドバイスを行った。また、新人スタッフから患者関係について前向きな発言がみられたので、今後も患者を知り必要な実践を行うことで関係性に変化が生まれ、そのことがより良いケアにつながっていくと説明した。 ②患者の状態を見て判断し実行できるようになりたい。
第5回 11/7	・栄養指導のあり方について ・フットケア継続と算定について ・成果や課題についての話し合い	「患者の気持ちを考えた根拠に基づく食事指導」 参加人数 9人	①食事指導について、医師・管理栄養士・看護師が協働して実践する必要性を再度説明した。食事指導では、患者の気持ちをまず汲み取り感じ取ることが何より大切であると説明し理解を深めていく内容とした。また、フットケア加算の流れについて助言を行った。 ②今回の学びによって患者にアドバイスができると思った。

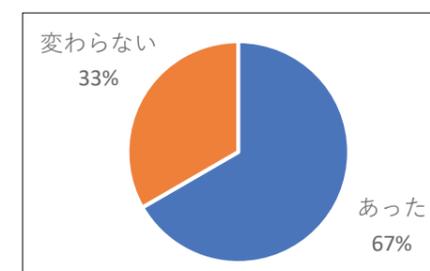
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・早期予防につながるフットチェックの実践継続
- ・透析看護についての理解を深める

■職員の反応

- ・実践を交えた研修会での学びで、足への関心が出てきている。
- ・透析についての知識が点から線へとつながり始めている。
- ・以前より持っている知識の再認識となった。

(2)担当者のご感想、ご意見

■良かったこと

- ・下肢切断に対して早期予防していきたいと思っていたが、実施方法がわからなかった。
- ・今回支援を受けたことで実施方法を学べ、実践につながった。
- ・新人看護師の知識が点から線につながってきている。

■困難であったこと

- ・回収時間と重なり、フットチェックの実施にもう少し時間をかけたかったができなかった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・靴下に穴が開いていたことをきっかけにフットチェックの実施につながった。
- ・水泡が足底にできていて医師と相談し観察継続を行った。
- ・足に関心を持つことができた。

(3)その他

- ・東日本大震災後、透析施設が減少したことに伴い相双地区での受け入れ患者数も減少した。地元で透析治療を行えない患者も多い。遠方まで通院することに配慮し、地元で治療継続できるよう少しでも力になれるようにしたい。

令和6年度 看護力向上支援事業報告

透析看護分野の支援を受けて



令和6年12月12日（木）
医療法人社団 青空会 大町病院
藤原珠世 高橋百合子 ○佐藤恭子

自施設の患者状況・看護師数

導入歴	人数
1年未満	1名
1年以上5年未満	12名
5年以上10年未満	12名
10年以上15年未満	4名
15年以上	5名

患者総数 34名
看護師数 5名

看護師経験年数

年齢	人数
40代	1名
50代	7名
60代	13名
70代	7名
80代	5名
90代	1名



支援後の変化



- 低血圧になる理由が分かり、対処方法も理解できた (3-5年目看護師)
- 12月より下肢末梢動脈疾患指導管理加算算定開始!! (30年以上看護師)
- 下肢切断させない (30年以上看護師)
- 靴下の穴から、フットチェックに繋がり足底に水疱を発見した (3-5年目看護師)
- 足指突に関心が深まった (1年未満看護師)
- 血圧低下がみられる患者の様子を注意深く観察してる (30年以上看護師)

明確になった課題

- ★フットチェックチェック表の記録により、情報を共有し患者のセルフコントロールに繋げる
- ★管理栄養士とカンファレンスを行い、生活背景と患者の状態に合わせた食事指導の実施
- ★透析マニュアルの充実

現状と課題

現状	課題
○人員不足に伴い看護師一人ひとりに求められるスキルが高い。	○統一した指導方法の確立とスタッフ育成
○フットチェックを実施していない為、今年度2名の下肢切断患者がいた。	○フットチェックの実践ができ、患者が足に関心をもち、セルフコントロールに繋げることができる。
○管理栄養士から透析患者への指導はしていない為、食事指導を口頭で看護師独自で判断し行っている。	○管理栄養士と連携し、個性のある統一した食事指導

目標

- ①フットチェックの実践ができ、患者が足に関心を持つ事ができる
- ②透析中の血液循環量が減少する要因を知り、血圧が低下した時の対処法を理解する事ができる
- ③根拠に基づく個性のある食事指導を実践する事ができる

今後継続していくために

知識 技術 → 多職種と連携 → 実践



ご支援ありがとうございました

支援の実際

透析勉強会テーマ	参加人数
第1回目 7月11日 腎不全看護とは	8名
第2回目 8月1日 透析患者へのフットケアの重要性	17名
第3回目 9月5日 ドライウエイトを理解し患者支援につなげる	8名
第4回目 10月3日 透析関連低血圧を知ることで患者対応につなげる	10名
第5回目 11月7日 透析患者の気持ちを考えた根拠に基づく効果的な食事指導	9名

打ち合わせ・勉強会 → 透析ラウンド・フットチェックの実際 → 支援・カンファレンス・振り返り

支援の実際



12) 国立病院機構いわき病院

施設名	国立病院機構いわき病院	実施分野	感染管理
認定看護師	加賀 陽子	所属施設	福島労災病院

目標

1. 手指衛生を理解し、正しいタイミングで実施できる
 - ・ 9月以降の手指衛生回数が10回以上となる
2. 感染対策に則した環境を整備する
 - ・ リンクナースを中心に吸引のベストプラクティスを作成する

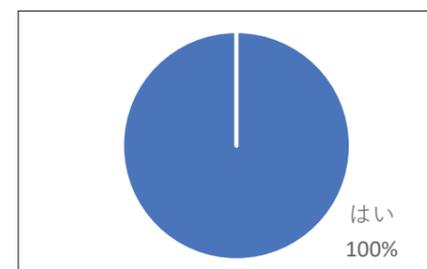
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/2	・ 担当者打ち合わせ ・ 施設内ラウンド (外来、3、2、1病棟) ・ 勉強会実施 ・ 感染対策チーム委員会への参加	手指衛生について 参加人数 20名	①事前アンケートは「常に正しく実施している」「1回2プッシュ必要なのか」「患者ケアと手指衛生の優先順位」が多かった。手指衛生実施回数や手荒れの現状から普段から真面目に取り組んでいることが伺えた。ピンホールの実演と5つのタイミングを中心に研修を実施。ラウンドでは、吸引用物品を置く台車の清潔/不潔のゾーニングとPPE配置場所が多すぎることを指摘した。 ②手指衛生の重要性がわかった。ピンホールによる実演を実際にやってみてわかりやすかった。
第2回 8/9	・ 担当者打ち合わせ ・ 勉強会実施 ・ 施設内ラウンド (外来、3、2、1病棟) ・ 吸引ベストプラクティスについて検討	吸引時の手指衛生について 参加人数 11名	①吸引時の手指衛生の必要性について、仰臥位時の咳嗽動画、蛍光塗料を用いた実演、5つのタイミングに合わせたチェックリストを用いて研修を実施した。手指衛生、手袋着用の頻度が高いため乾燥しない夏場でも手荒れ職員が多い。ラウンドではアイガードを頭に載せる、ポシットにひっかけるなど不潔な取り扱いについて指摘した。 ②実際の飛沫や蛍光塗料による汚染範囲を見ることでイメージしやすく、実演により手指衛生のタイミングがわかりやすかった。
第3回 9/3	・ 担当者打ち合わせ ・ 勉強会実施 ・ 吸引ベストプラクティス内容確認 ・ 吸引手順動画作成	個人防護具着脱訓練 参加人数 36名	①現状のCOVID-19対策(飛沫エアロゾル対策+標準予防策)について解説とPPEの正しい着脱方法について実演とグループに分かれて演習を実施した。吸引のベストプラクティスについて看護ケア技術も入っているためチェックリストの項目が多過ぎると指導した。動画撮影ではリンクナース自身で考え進めることができていた。 ②実際に着脱したため順序や根拠を理解できた(多数)。福祉職でもわかりやすかった。今まで間違っていたことを正しい知識に置き換えることができた。
第4回 10/22	・ 担当者打ち合わせ (動画視聴) ・ 勉強会実施 ・ 病棟ラウンド ・ リンクナースとの打ち合わせ	標準予防策と感染経路別予防策 参加人数 13名	①標準予防策と感染経路別予防策は組み合わせて使うことを説明した。標準予防策と感染経路別の詳細について説明した。グループワークとして症例を出し実際にPPEの着用や予防策カードの選択・発表をした。ラウンドでは、吸引物品や水周り物品の配置、アイガードの使用法など改善がみられた。 ②講義とグループワークによる実践でわかりやすかった。実際にやってみることでスタッフへの説明がしやすい。
第5回 11/5	・ 担当者打ち合わせ ・ 振り返りの会 ・ 勉強会実施 ・ 感染対策チーム会議 ・ 病棟ラウンド	手指衛生・5つのタイミング 参加人数 11名	①手指衛生5つのタイミングについて講義した。動画を用いて討論してもらった。手荒れのケアについて説明した。ラウンドでは吸引物品置場でのPPEの箱を立てて置くのが難しいとのこと。患者傍に置かれる物品が少なくなったため1つの箱だけなら平置きでも良い。吸引物品台車の毎日の清掃ができるよう物品を減らしていた。 ②動画視聴やグループワークがありわかりやすかった、実践に活かすことができる内容だった。

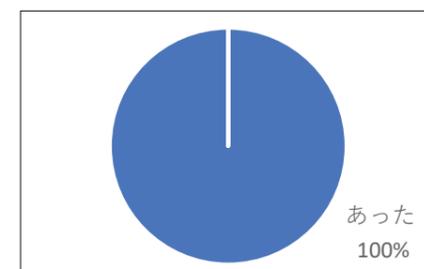
(1) まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：ほぼ達成した

■今後の課題

- ・ 手指衛生と吸引について根拠に基づいた正しい知識を全看護師へ周知し実践できる。
- ・ 研修前に比較し正しい手技での実践が身につく実践できる。
- ・ 入院患者の感染による発熱などの症状が減少する。

■職員の反応(抜粋)

- ・ 感染対策リンクナースとしてスタッフからの質問や意見に迷った時に認定看護師にタイムリーに相談できた。その結果、根拠を示してスタッフへ返答することができた。
- ・ リンクナースが手袋のピンホールを知ってから前より手指衛生をしっかりと行うようになり、正しい方法でできていないスタッフへ正しい方法を共有するようになった。
- ・ PPE着脱について福祉職でも理解できるようわかりやすい講義だった。

(2) 担当者のご感想、ご意見(抜粋)

■良かったこと

- ・ タイムリーに助言をいただけたことで、スタッフが各病棟で発信、伝達することができた。手指衛生の重要性について根拠から学び直すことができた。
- ・ 手指衛生やベッドサイドの環境整備について一部のスタッフに行動変容(正しい方法)が見られるようになった。
- ・ 助言を受けながら交差感染の危険性についてDVDを作成した。
- ・ 認定看護師の研修資料を参考に看護補助者に対する院内研修の講義資料を作成できた。

■困難であったこと

- ・ 研修会へ参加できないスタッフへのタイムリーな周知が不十分であった。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・ 擦式アルコール剤について使用量に重点を置いていたが、タイミングが重要であることがわかりスタッフへ指導できるようになった。
- ・ 吸引のベストプラクティスを作成し看護師全員にチェックすることができた。
- ・ ゴーグルの取り扱いが正しくできるスタッフが増加した。

(3) その他

- ・ 当院には感染管理認定看護師がおらず感染管理について不安な点が多々あった。それらを今回、認定看護師へ相談でき解決することができた。実践方法も当院の現状に合わせた持続可能な方法をご指導いただいた。支援いただいた内容を参加できなかった看護師へ周知し、看護の質が向上できるよう努めていきたい。

令和6年度
看護力向上支援事業

感染管理 活動報告



独立行政法人国立病院機構
いわき病院 看護部
教育担当看護師長 高橋佑果

1. 当院の現状

- 患者の半数以上が吸引を必要
- 吸引のベストプラクティスが未作成
- 標準予防策が徹底されていない

問題

- 感染症を誘発する可能性

課題

- 手指衛生を中心とした標準予防策の定着
- 吸引ベストプラクティスの作成

2. 目標

- 手指衛生を理解し正しいタイミングで実践できる
→目標値：9月以降の手指衛生回数が**1患者あたり10回以上**（もしくは前年度より増）となる
- 感染対策に則した環境が整備ができる
→目標値：感染対策リンクナースを中心に吸引の**ベストプラクティスを作成**し看護師の手技をチェックする

3. 実践

1) 勉強会の開催

回数	内容	参加数
第1回	手指衛生について ～手指衛生の必要性と実際～	20名
第2回	吸引時の手指衛生 ～5つのタイミングで考えてみよう～	11名
第3回	個人防護具着脱訓練 ～COVID-19対策における標準予防策～ ～個人防護具の着脱を再確認！～	36名
第4回	標準予防策と感染経路別予防策 ～自分で予防策を選んでみよう～	13名
第5回	手指衛生の5つのタイミング	11名

スタッフの声

標準予防策が理解できた。スタッフへも指導できそう

（吸引時の）汚染範囲を目で確認したら環境整備を頑張りたいと思った

スタッフからの質問を相談できタイムリーに解決できた。

手袋のピンポイントを知ってから手指衛生を気をつけています

5つのタイミングがようやく理解できました

感染経路別予防策が分かりました

いつも自分が行っていた事と何が違うか分かりました

手指衛生を徹底したい

知識・技術の習得、悩みの解決

2) 吸引ベストプラクティス作成

「なぜ作成する必要があるのか」を丁寧に説明

まずは、リンクナースがお互いにチェック

動機付け

作成

周知

手技チェック

吸引時の手指衛生5つのタイミング

スタッフからの疑問を認定看護師へ相談しフィードバック

3) 病棟ラウンド

現状把握

吸引物品について助言

確認・助言

4) 勉強会用DVD作成

認定看護師の講義を病棟でも伝えたい！

今後、各病棟で実施

4. 手指衛生についてアンケート結果

手指衛生ができない（できにくい）場面

①正しく実施できていない
②手指衛生のタイミングが分からない
③擦式アルコール剤の効果を感していない
④おむつ交換場面
⑤ベッドサイド訪室前
⑥点滴ミキシング前
⑦ベッドサイドを離れる前

手指衛生についての悩み

悩み（介入前・後ともに共通）
第1位：手荒れ
第2位：アルコール消毒がすぐ乾かず手袋をはめられない

5. 目標評価

1) 手指衛生を理解し正しいタイミングで実践できる

→目標値：9月以降の手指衛生回数が**1患者あたり10回以上**（もしくは前年度より増）となる

10月の目標未達成

減少した理由を注意深く観察

1回量の目安を変更したため？

乾燥による手荒れの時期？

2) 感染対策に則した環境整備ができる

目標値：感染対策リンクナースを中心に吸引の**ベストプラクティスを作成**し看護師の手技をチェックする

手指衛生の5つのタイミングに焦点

口拭・鼻拭内吸引	A病棟	B病棟	C病棟	平均
①	100	100	100	100
②	100	93.1	100	97.7
③	100	100	100	100
④	100	100	93	97.667
⑤	100	100	97	99
平均	100	98.62	98	98.873

目標達成

今後の課題

正しい手順が定着するよう継続した取り組み

6. 支援をうけて変化したこと

支援前

支援後

- ベッドサイドの環境（特に吸引物品）
- 感染対策リンクナース
以前よりさらにロールモデルとして病棟で活躍している姿
- 手指衛生について
おむつ交換の場面で悩んでいるんだ。
ハンドケアについて支援が必要かも。

今後の課題

- 手指衛生や吸引について根拠に基づいた正しい知識・技術を看護師全員へ周知
- 看護職員全員が継続して感染対策を実施
- 入院患者の感染による発熱等の症状が減少

看護師（病院職員）の悩みを理解し、継続できる感染対策を一緒に考えていく

13)介護老人保健施設サンライフゆもと

施設名	介護老人保健施設 サンライフゆもと	実施分野	皮膚・排泄ケア
認定看護師	高萩 由美子	所属施設	いわき市医療センター

目 標

- ・褥瘡ケアに関する知識(予防、管理)や技術が身につく
- ・DESIGN-R®2020の評価が身につく統一したケアに繋げる
- ・スキンケア方法、IAD(失禁関連皮膚炎)、スキン-ケアについての予防や管理が身につく

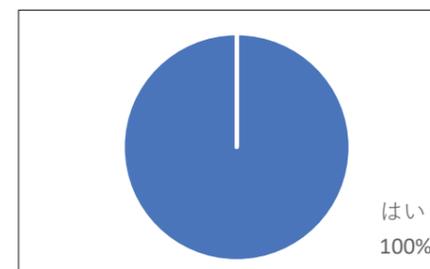
実施内容

訪問日	実施項目	研修会テーマ等	①認定看護師の活動内容 ②受講者アンケートの意見等
第1回 7/17	・事前の打ち合わせ (介入予定者の情報共有) ・ラウンド(4名) ・研修会 ・次回の打ち合わせ	「褥瘡対策・予防」 「ポジショニング」 参加人数 15名	①初回支援のため、病院と施設の対象は異なるが、同じ目標を持ってケアをしていく同志であることを理解してもらえるよう説明した。創部の洗浄方法やテープの固定方法など実践をしながら説明した。 ②直接の指導とアドバイス、講義がとてわかりやすかった。
第2回 8/21	・事前の打ち合わせ (介入予定者の情報共有、ケア等に関する進捗状況) ・ラウンド(9名) ・研修会 ・次回の打ち合わせ	「褥瘡対策・管理と治療」 「DESIGN-R®2020」 参加人数 18名	①ラウンド時、DESIGN-R®2020のポイントを説明し、評価した。研修会では、多職種も含め参加者全員に写真を提示し、実際にDESIGN-R®2020で評価してもらった。 ②DTIを知らなかったので、学ぶことができた。褥瘡の評価方法について理解できた。知識が増えることで意欲向上につながった。
第3回 9/25	・事前の打ち合わせ (介入予定者の情報共有、ケア等に関する進捗状況) ・ラウンド(5名) ・研修会 ・次回の打ち合わせ	「スキンケア」 参加人数 16名	①理学療法士に介入時ベッド上でできるヒップアップや自力体位変換の仕方なども指導してもらうよう説明した。研修会ではスキンケアの重要性とテープの貼り方、剥がし方を説明した。 ②お風呂上りや処置の際に活用していきたい。いろんな状態の利用者がいるので、実演で使用した保湿剤など機会があればアドバイスができると思った。
第4回 10/16	・事前の打ち合わせ (介入予定者の情報共有、ケア等に関する進捗状況) ・ラウンド(5名) ・研修会 ・次回の打ち合わせ	「スキン-ケア・IAD」 参加人数 19名	①ラウンド時、創がどんな状態になったら次の軟膏にするか、軟膏の重層療法という塗布の仕方もあることを説明した。研修会ではスキン-ケアとIAD予防のための保湿・保護とケア時に注意することを講義した。 ②スキン-ケアとは聞いたことがありましたが、理解はできていませんでした。今回の研修でよくわかりました。
第5回 11/13	・振り返りの会 ・事前の打ち合わせ (介入予定者の情報共有、ケア等に関する進捗状況) ・ラウンド(5名) ・研修会 ・報告会に向けて	「症例からのディスカッション」 参加人数 21名	①症例が改善した例はよいが、悪化したりなかなか改善しない場合もある。局所だけに捉われず利用者の特性や基礎疾患なども含め全体的に考えることを説明した。これからも継続したケアを続けるためにも多職種で助け合いながら、よい方法を検討していただきたい。 ②施設における課題などを理解できた。褥瘡保有者の方の患部がどんどん治癒されていくことに達成感と感動を得ることができました。

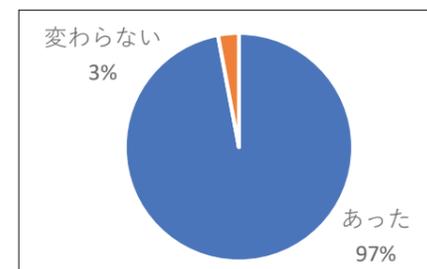
(1)まとめ

■研修会結果

研修内容は役立つか



仕事やケアに関する意識の変化



■目標の達成度：達成した

■今後の課題

- ・事業への参加や研修会受講により、職員の知識やスキル向上につながっております。しかし、当施設の現状においてマンパワー不足が深刻化しておりスタッフ間でしっかりと時間を設けたディスカッションが行えておらず、そこが課題と考えている。

■職員の反応

- ・日進月歩を念頭に置いている職員達です。担当者からの処置の伝達および実践、褥瘡評価、研修会で得た知識を深めている。
- ・他職種も研修会へ参加することで知識習得につながっているようで、「とても勉強になった」との声も多く聞かれた。

(2)担当者のご感想、ご意見(抜粋)

■良かったこと

- ・自分達に不足していた知識を改めて振り返ることができ、専門的な知識や視点が学べて良かった。ラウンド時に創部の評価や処置をわかりやすく説明し実践していただくことで適切な軟膏の選定やDESIGN-R®2020を用いた評価ができるようになった。

■困難であったこと

- ・手技伝達し統一したケアに至るのに時間がかかった。介護職へ褥瘡処置について知識や理解、皮膚トラブル予防方法をわかりやすく伝えることに大変苦慮した。

■業務やケアに対する意識の変化、行っていたケア・手順から変化したこと

- ・適切な評価、処置を指導していただき褥瘡改善・治癒する利用者が増え新規褥瘡発生者もおらず、看護師としての達成感を感じモチベーション向上につながっている。以前より処置業務に対してより集中力を持って取り組める状態になった。
- ・洗浄剤を用いた洗浄と十分な量の微温湯で洗い流すことや創によって軟膏を使い分けできる様変化していった。また、被覆材の固定方法、脆弱な皮膚へ保護目的の貼付工夫など新たに取り入れたケアも増えました。
- ・担当者およびリンクナーが主体となって掲示物の作成や処置業務と一緒にラウンドすることでケアに差異が生まれにくい様工夫していた。

(3)その他

- ・今後も定期的に最新の情報や動向などをメール等でいただけると有り難い。
- ・看護力向上支援事業に参加し認定看護師にアドバイス頂ける機会があり大変心強く感じている。引き続き統一した評価、ケアを行えるよう日々努力していきたい。

令和6年度 看護力向上支援事業報告 皮膚・排泄ケア認定看護師の 支援を受けて

令和6年12月12日(木)
医療法人社団秀友会
介護老人保健施設サンライフゆもと
看護部 木村有佑・佐藤恵

施設概要

- 設立 1988年11月14日
- 定床数150名
一般棟100床、認知症棟50床
短期入所、通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション、グループホーム
- 職員総数約130名
医師、看護師、介護職員、理学療法士、
作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員、
支援相談員、管理栄養士、事務
- 令和5年度～
褥瘡マネジメント加算
算定開始

事例報告(認知症棟)

症例	78歳女性 要介護4 部位：左踵部DU発生日：R6年7/3
1回目 (8/21)	DU-e1s3i0G6N6p0=16点 サイズ：2.2×1.6=3.52cm ゲーベン継続
2回目 (9/25)	DU-e1s3i0G6N6p0=16点 サイズ：2.5×1.5=3.75cm 創部ゲーベン継続、創辺縁ワセリン薄く塗布し保護。
3回目 (10/16)	DU-e1s6i0G6N3p0=16点 サイズ：2.5×1.8=4.5cm 外科的デブリドマン実施。 創部ゲーベン継続、創辺縁ワセリン薄く塗布し保護。
4回目 (11/13)	DU-e1s3i0G6N3p0=13点 サイズ：2.5×1.5=3.75cm 創部ゲーベン継続、創辺縁ワセリン薄く塗布し保護。

認知症棟 症例経過

自施設の現状

- 適切な褥瘡処置と予防方法の知識不足
- スケール評価(DSIGN-R 2020)が曖昧
- 創傷や排泄ケアの最新の動向が把握出来ていない
- 備品や設備不足
- ポジショニングの統一が図れていない
- 他職種との連携不足
- 外部研修への参加不足
- マンパワー不足

目標と課題

- 褥瘡ケアに関する知識(予防、管理)や技術が身につく。
- DESIGN-R 2020の評価が身につく統一したケアに繋げる。
- スキンケア方法、IAD(失禁関連皮膚炎)、スキン-テアについての予防や管理が身につく。

支援・研修内容

第1回目 7/17(水)	ラウンド(褥瘡処置、DESIGN-R 2020評価、ポジショニング) 研修会「褥瘡対策・予防」「ポジショニング」
第2回目 8/21(水)	ラウンド(褥瘡処置、DESIGN-R 2020評価、認知症棟ラウンド) 研修会「褥瘡対策・管理、治療」「DESIGN-R 2020」
第3回目 9/25(水)	ラウンド(褥瘡処置、DESIGN-R 2020評価、認知症棟ラウンド) 研修会「スキンケア」
第4回目 10/16(水)	ラウンド(褥瘡処置、DESIGN-R 2020評価、認知症棟ラウンド) 研修会「スキン-テア」「IAD」
第5回目 11/13(水)	ラウンド(褥瘡処置、DESIGN-R 2020評価、認知症棟ラウンド) 研修会「症例からのディスカッション」

支援後の変化

- 以前は褥瘡処置においての洗浄は微温湯のみ、使用する軟膏も一部に偏りがあった。洗浄剤を用いた洗浄と十分な量の微温湯で洗い流すことや創によって軟膏を使い分け出来る様になった。
- 被覆材の固定方法、脆弱な皮膚へ保護目的の貼付工夫など新たに取り入れたケアも増えた。
- 担当者及びリンクナースが主体となり掲示物を作成、処置業務を他看護師と一緒にラウンドすることでケアに差異が生じない様配慮した。

支援後の学び

- 認定看護師から支援を受けたことで、自分達に不足していた知識や手技を改めて振り返ることができ、専門的な知識や視点を学ぶことが出来た。
- 実際のラウンドの中で創部の評価や処置をわかりやすく説明し実践して頂いたことで適切な軟膏の選定やDESIGN-R 2020を用いた評価が出来るようになった。
- 褥瘡対策やスキンケアにおける必要な基礎知識を看護部だけでなく施設内の多くの職員で情報共有できる貴重な機会となった。

事例報告(一般棟)

症例	91歳女性 ストーマ保有 要介護5 部位：仙骨部D4 発生日：R6年4/7
1回目 (7/17)	D4-e3s6i0G6n0P9=24点 サイズ：3.5×2.0=7cm ポケット：5×3.0=15cm イソジンシュガー継続。
2回目 (8/21)	D4-e1s6i0G6n0P9=22点 サイズ：3.0×2.0=6cm ポケット：5.5×3.0=16.5cm イソジンシュガー継続。
3回目 (9/25)	D4-e3s6i3cG6n0P6=24点 サイズ：3.5×2.5=8.75cm ポケット：4.5×2.5=11.25cm イソジンシュガー継続 1日2回
4回目 (10/16)	D3-e1s3i0G5n0P6=15点 サイズ：2.5×1.5=3.75cm ポケット：3.0×1.5=4.5cm イソジンシュガーからアズノールへ変更 1日1回
5回目 (11/13)	D3-e1s3i0G6n0P6=16点 サイズ：1×1.5=1.5cm ポケット：1.5×1.5=2.25cm アズノールからプロスタンディンへ変更

一般棟 症例経過

今後の課題 ～継続していく為に～

- 支援を受けて得た知識や考え方を基に褥瘡対策を継続していく。
- 事業担当者をはじめ、各棟のリンクナースが主体となり、処置ラウンドの中で実践・指導を継続し個人の評価スキル向上を目指す。
- 定期的な褥瘡委員会の召集、他職種でカンファレンス実施のもと連携を図り情報を共有していく。
- 外部研修への参加、施設内勉強会の実施

5 報告会の開催

令和6年12月12日(木)、福島県看護会館みらいにおいて、事業に参加した医療機関等の担当者、担当の認定看護師、事務局担当者が活動報告をした。

参加医療機関等の担当者13名(うち1名報告書での報告)、担当の認定看護師13名(うち2名報告書とビデオメッセージにて報告)、事業に参加した医療機関等の看護職責任者および関係者等17名、認定看護師所属施設看護職責任者7名、事業に関心がある他施設の看護職責任者および関係者8名、福島県医療人材対策室事業担当者1名、協会役員2名、教育・事業課4名 計65名が参加し成果と課題を共有した。



■認定看護師所属施設 看護職責任者からのご感想

・派遣した当初は不安な様子があったが、徐々に施設の方との関わりを通し充実した様子がみられた。本日発表を聞き認定看護師として成長もみられ、施設における学びは大きかったと思った。

【公立藤田総合病院 平井副院長兼看護部長】

・どの報告も素晴らしかった。事業に参加した施設のスタッフは、この事業を活用するにあたって、普段感じていることを声に出してみよう、と現場の声があり要請したのだと思う。参加を申し込んだ時点で素晴らしい看護が待っていると思った。結果からもそう感じた。成功体験を承認し合い、縁を大切にすることを継続してほしい。派遣する立場としては、素晴らしい活動をしてくれたことを誇りに思う。協力をするうえで集中できる時間の確保等、もっと環境を整えてあげれば良かったため課題としたい。【星総合病院 岩井看護部長】

・素晴らしい発表であった。事業に参加させていただき感謝申し上げる。自部署以外での活動は相手との関係性づくりから始まると思うが、受け入れが大変良くてうまくいき良い成果が出たと思う。事業に参加した施設は目標を達成した後も、もっとより良くとつなげようとしていたことが素晴らしい。これからも共に頑張っていきたい。当院から派遣した認定看護師の発表を聞き、流石だなと感じた。

【寿泉堂総合病院 岡部法人看護部長】

・全体の感想として、発表を聞き各施設において事業目的は果たしているように感じた。自施設は、認定看護師を派遣し参加させていただいた。池田記念病院の担当者は、受講できなかった職員を一生懸命フォローし、動画やミニテスト実施等工夫されていた。それにより認定看護師も活動しやすかったと思う。認定看護師が大切にしている「困っている方は誰?」というところが伝わっていたように思う。次の認知症ケアに繋げていただき、今後も認定看護師に相談していただきたい。

【白河厚生総合病院 飛知和副看護部長】

・今日は色々な実践や思いを聞き、感銘を受けた。普段から認定看護師は精力的に活動しているが、他の施設でもその知見が役に立った。毎回の活動報告から、認定看護師自身の視野が広がり本人の実践力向上につながっていた様子も窺えた。皆さんの報告を聞き、認定看護師の実践と、参加した施設の実践や職務への責任や熱意などの全体を語っていきたいと思った。是非、これからも色々活用させていただき、顔の見える関係を築きながら互いに相談し合いたい。その積み重ねにより、県全体のレベルアップが図れていくのだなと思った。【常磐病院 高木看護部長】

6 事業評価について

事業全体の評価をするために、事業に参加した13医療機関等に事業評価アンケート調査(受講者用)の実施と「振り返りの会」を開催した。担当の認定看護師には、事業評価アンケート調査(講師用)を実施した。

1) 受講者の事業評価アンケート結果

【看護職責任者による目標達成度】

達成した……5施設 ほぼ達成した……8施設

【事業に参加した医療機関の職員への事業評価アンケート結果】

期間：第4回支援の日程(9~10月)終了後

対象：実施施設の研修を受講した看護職員および支援時に参加した多職種職員

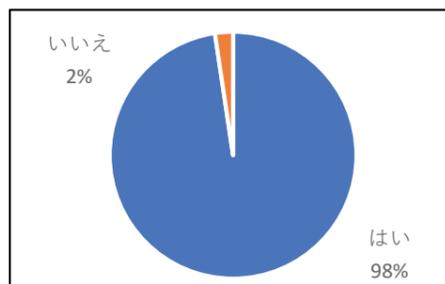
アンケート依頼状況と回答率

総依頼数：419 集計数：255 回答率：60.9%

医療機関名	総受講者数	アンケート依頼数	回答数	内訳		回答率
				看護職	看護職以外	
介護老人保健施設敬愛シニアガーデン卸町	67	64	17	8	9	26.6%
公立小野町地方総合病院	192	83	31	25	6	37.3%
日東病院	111	25	25	14	11	100.0%
飯塚病院	75	21	20	16	4	95.2%
土屋病院	137	47	34	19	15	72.3%
池田記念病院	90	33	21	15	6	63.6%
三春町立三春病院	184	14	6	6	0	42.9%
清水病院	112	16	14	12	2	87.5%
村上病院	150	34	31	15	16	91.2%
磐梯町介護老人保健施設りんどう	33	8	8	7	1	100.0%
大町病院	52	20	6	5	1	30.0%
国立病院機構いわき病院	91	15	8	8	0	53.3%
介護老人保健施設サンライフゆもと	89	39	34	8	26	87.2%
合計	1,383	419	255	158	97	60.9%

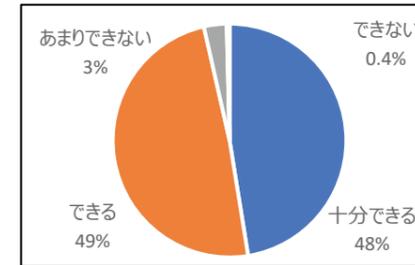
アンケートの設問に対する結果(抜粋)

■研修の内容は役立つか



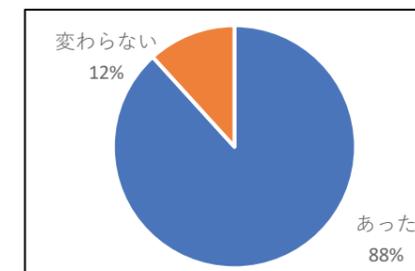
- ・感染対策について再確認できる、病院の特徴に合わせた感染対策を知ることができるため。
- ・虐待防止には職場環境や風通しの良い職場環境が必要となり、自分の力は微々たるものだが頑張りたい。
- ・なかなか連携がとれなかったことが、この事業を行ったことで改善し、モチベーション向上にもなっている。
- ・知識を持って病気と向き合うことで患者を理解し、きちんと対応していきたい。
- ・今まで曖昧だったDESIGN-R®2020の評価方法が身につき、正しい評価ができるようになった。事業を通し身についた知識を他職員へ伝達できるよう努力していきたい。

■今後の業務に活用できるか



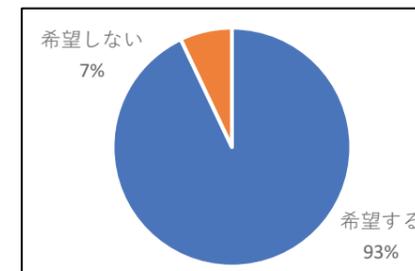
- ・上手に管理者を巻き込み浸透するような伝え方で、研修後、部署の行動変容につながっている。
- ・時計や説明の用紙をおくなど、すぐに活用できそうだと感じたため。患者が落ち着いて少しでも安心して過ごせるような関わりをしていきたいと思った。
- ・リハビリテーション科に活用できる内容が多くあった。
- ・フットチェックやドライウエイト、血圧など身近で大切なことがとてもわかりやすかった。
- ・他のスタッフと違和感を共有することで対策などみえてくると思った。

■仕事やケアに関して意識に変化はあったか



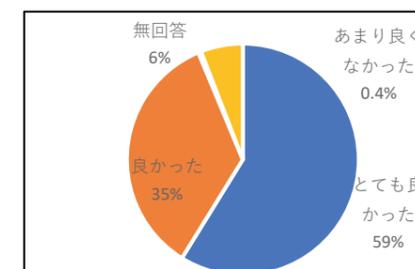
- ・看護のモチベーション向上になり、仕事の連携がスムーズになった気がする。
- ・自己の看護観と研修中での学びが一致し自信を持って看護することができそうと感じた。
- ・接遇や地域定着支援、入院患者の支援についてより一層力を入れたいと思った。
- ・感染管理に一層努めるようになり、スタッフにも自信をもって指導できるようになった。
- ・患部が改善・治癒し、看護師としてのやりがいを感じモチベーションアップにつながった。

■今後もこのような活動を希望するか



- ・認定看護師にすすみたいと思う機会になった。
- ・患者の身を守るために必要な知識を得たい。
- ・認知症という身近な病をきちんと理解し、スタッフの知識を深めたい。
- ・普段の業務だけでは、間違いに気づくことが難しいため、外部の病院の話を聞く機会があると良いと思った。
- ・褥瘡を持つ利用者が明らかに減った。認定看護師のアドバイスなども、職員のケアへの気持ちが高まるきっかけになった。

■認定看護師の支援について



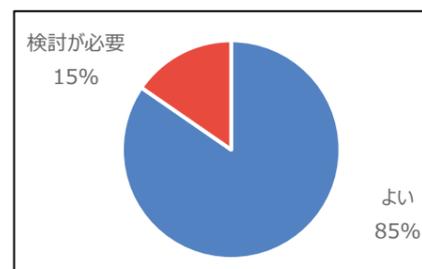
- ・指導後の褥瘡の改善が著しく、認定看護師の知識と指導力の高さを感じた。
- ・私たちの良いところを教えてもらったり、すぐ実践できるアドバイスをいただいた。
- ・当院に寄り添ってアドバイスをもらい、動き出すきっかけを認定看護師よりいただいた。
- ・看護師、他職種関係なく学ぶ者の目線で一緒に考え、認定看護師として経験値からのアドバイスもいただいた。他職種からの、単純かもしれない疑問にもわかりやすく答えてもらった。次も出席したくなるような講義で勉強になり、とても楽しかった。

2) 認定看護師の事業評価アンケート結果

調査対象：参加医療機関等を担当した認定看護師13人(回答：全13人)

アンケートの設問に対する結果(抜粋)

①活動時期、期間について



- ・1か月に1回の活動は、業務に支障がなく実施できた。
- ・感染症流行があっても日程を修正する余裕があった。
- ・対象は新人看護師が多かったため、隔月で2回支援する日があっても良かったと感じる。
- ・最終訪問が11月になると報告書の提出等の期限が迫るので、方策検討会をもう少し早く開催しても良い。
- ・冬季だと移動に苦労するため、今回の開催時期がちょうど良いと思う。月1回の頻度で訪問させていただき、患者状況、変化も把握することができ頻度も問題なく支援継続できた。

②担当した医療機関等の対応

- ・新しい取り組みをするための仕組み作りがとてもスムーズであった。
- ・事業参加施設において会場やパソコン等の機器準備は万全であった。また、YouTube配信の手段もとり多くのスタッフが研修視聴できる機会を設けていた。担当者との連絡、やり取りもスムーズであり安心して研修を進めることができた。
- ・対応はとても良かったし、受け入れてもらえている感じもした。
- ・勉強会や活動する際の環境調整など行っていただき、丁寧に対応していただいた。

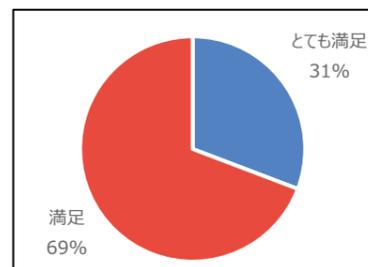
③実施環境について

- ・パソコンを含め、研修会場の準備、打ち合わせを行う会議室の準備も万全であった。
- ・着替える部屋やロッカーはなかったが、着替える時に退出してくれるなどの配慮があった。
- ・担当者のメールアドレスがなかったため情報伝達の面でやりにくさを感じた。
- ・勉強会の機材や会場、ロッカー、記録や情報収集の場所も準備していただき、とても良かった。

④研修会について

- ・目標を一つに絞り、研修内容を担当者と一緒に考えることができた。
- ・次回の研修会テーマについて打ち合わせ、知りたいと思う内容に近い研修会ができていたと思う。開催時間も、参加しやすい時間を指定していただけたのでありがたかった。私が話しすぎてしまい、いつも30分では終わらず申し訳なかった。
- ・施設の担当者で現場の状況を確認してテーマを決めていくことができた。

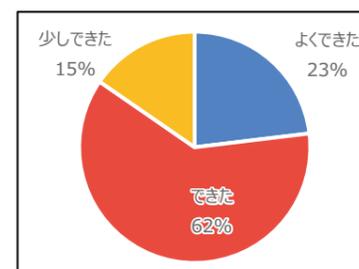
⑤研修会、演習など毎回実施してどうであったか



- ・先方のアンケート結果、反応、振り返りの会での良い発言が多かったため。
- ・興味関心があり、積極的な職員がいる一方、アンケートの回答で無関心な方がおられた。
- ・研修を実施したことで、スタッフから「もっと学びたい」という声や意欲を感じることができ、やり甲斐を感じて実施継続できたため。

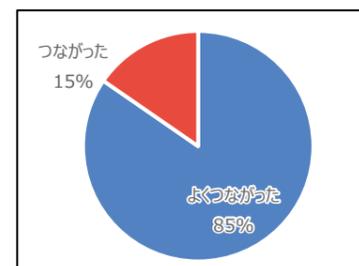
- ・実践した内容を業務に取り入れてくれたため。
- ・真面目に取り組んでくれた人が多かった。受講する人数が少なく、管理職の方が半数の時間が残り残念だった。

⑥専門性の高い看護ケアを提供できるように活動できたか



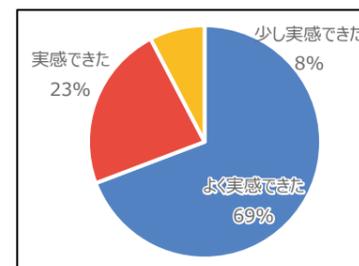
- ・研修内容を理解し実践に活用していただいた。
- ・担当した医療機関等の特性を踏まえつつ、感染対策上、譲れないところは強く伝えることができたと思うため。
- ・成果を数値として表すことは難しいが、回復期リハビリテーション病棟や脳卒中看護の特徴に特化して、また事例を参考にしながら講義を進めることができたため。
- ・スタッフの行動変容がみられ、また患者の褥瘡評価DESIGN-R® 2020の点数減少、スタッフの支援前後の褥瘡スキンケアのアンケートで理解度の点数の向上がみられたため。

⑦今回の経験は自身のキャリアアップにつながったか



- ・担当した医療機関等の課題について一緒に考えることにより、自己研鑽につながった。
- ・自施設より濃厚な医療やケアを必要とする看護に触れ、必要とされる感染対策も異なるとわかった。普段実施しないケアについて調べ、考えて回答したのでとても勉強になった。
- ・環境やレディネスの違う看護職に関わることで、指導方法を工夫したりして自身の知識の幅が広がった。
- ・初めての取り組みであり、他施設での研修は緊張もとても強く伴うものだった。しかし、他施設の現状、良さ、改善できる見込みがある点を知り、自分に何ができるか考える機会をいただいたことはとても貴重な経験だった。
- ・自身の学んできたことを他者に理解してもらえるようにどう伝えていくかというのを、支援期間中は考えることがほとんどで、自身が学んできたことを振り返りながらやることもできて、学び直しつつ他者への伝え方について考えることができた。
- ・自施設とは違う環境で、相手側が求めるものを提供していくことの大切さを知ることができた。そのことが経験値となり次につながっていくと思ったため。

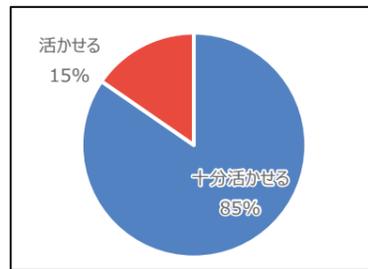
⑧認定看護師としての役割を実感できたか



- ・職員からのコンサルテーション依頼があり、問題解決に対し一緒に考えることができた。
- ・学んできたことを他者に伝えていくことで、認知症の方々も穏やかに過ごせるようになっていけるのではと思うと、認知症看護認定看護師の役割を少し果たせたかなと思う。
- ・専門的な分野の実践だけでなく、相談、指導の部分で上司への働きかけやスタッフの働きかけ、調整役としての動きも伝えたため。

- ・専門性をもって、根拠のあることをわかりやすく伝える重要性を強く感じたため。
- ・自施設だけでなく、地域の他施設で少しでも役に立てたかと思う。
- ・有資格者をツールとして活用していただき、地域連携を図れたと思う。
- ・アドバイスや実践を経て患者の変化を感じてもらえたことで、認定看護師としての役割を感じた。
- ・自施設だけの活動ではなく、他施設でも活動できたことで役割の拡大につながったと感じた。

⑨今後、認定看護師としての活動に活かせるか



- ・自施設では見えない部分について、他施設を支援したことで気付くことができた。
- ・感染対策の指導を行う前に、相手の置かれた状況を理解することは院内でも十分生かされるし、その重要性を再確認した。
- ・様々な環境やレディネスの看護職、他職種への指導や関わりを学んだ。その学びを活かしたい。
- ・スタッフに指導することや、ニーズに応じた研修をする難しさや重要性を強く感じた経験となった。また自施設だけでなく地域に目を向けることの必要性も改めて感じることもできた。

- ・支援内容を振り返ると足りていなかったこともあったので、今後の活動に活かしていきたい。
- ・地域の病院の現状を知り、地域への認定看護師の介入が必要だと感じた。

⑩要望、感想、ご意見、事業担当(協会)について

- ・この事業を続けていただくことが福島県の看護の質の向上につながると思うため継続を希望する。
- ・認定看護師が研修スライドの最後にQRコードを入れられるようにしておくとうれしいと思う。
- ・相互に学びがあり、楽しく介入させていただいた。今後も協力したい。
- ・今後も積極的に協力させていただきたい。効果の高い素晴らしい事業だと思う。
- ・報告書の簡略化などを検討していただけると助かる。
- ・相互にとっても、とても有意義な事業だと感じている。ありがとうございました。
- ・他県にはない素晴らしい取り組みと感じている。看護の質向上のために続けていただきたい。
- ・とても良い取り組みだと思う。県の要請で支援に入れる施設規模が決まっているようだが、規模に関わらず支援を求めているところはあると思うため、それが拡大していくとうれしいと思う。
- ・費用対効果においても十分な効果のある事業だと思う。他県に広げ、日本全体の看護力の底上げをして欲しいし、経験者としてネットワークの中で紹介して行きたい。
- ・認定看護師を必要としていても、養成機関に行かせられない施設もあると思う。認定看護師を派遣することで、病院や施設の看護の質の格差がなくなり、患者や利用者にとって、とても素晴らしい事業だと思った。
- ・自分と担当施設の状況をよく把握し温かい言葉をかけてくださりとても心強かった。認定看護師1年目で引き受けるべきではなかったかと不安になることもあったが、いつもほめてくださりとても嬉しかった。たくさん届く報告書もとてもよく読み込んでくれていると感じた。
- ・事業が円滑に進むように電話やメールでのやり取りの他、体調面の配慮など細やかな温かい気遣いを感じながら活動を遂行することができた。
- ・悩んだときに貴重なアドバイスをいただくことができ前向きに取り組むことができた。この活動を支えていただき感謝申し上げます。

7 フォローアップ研修

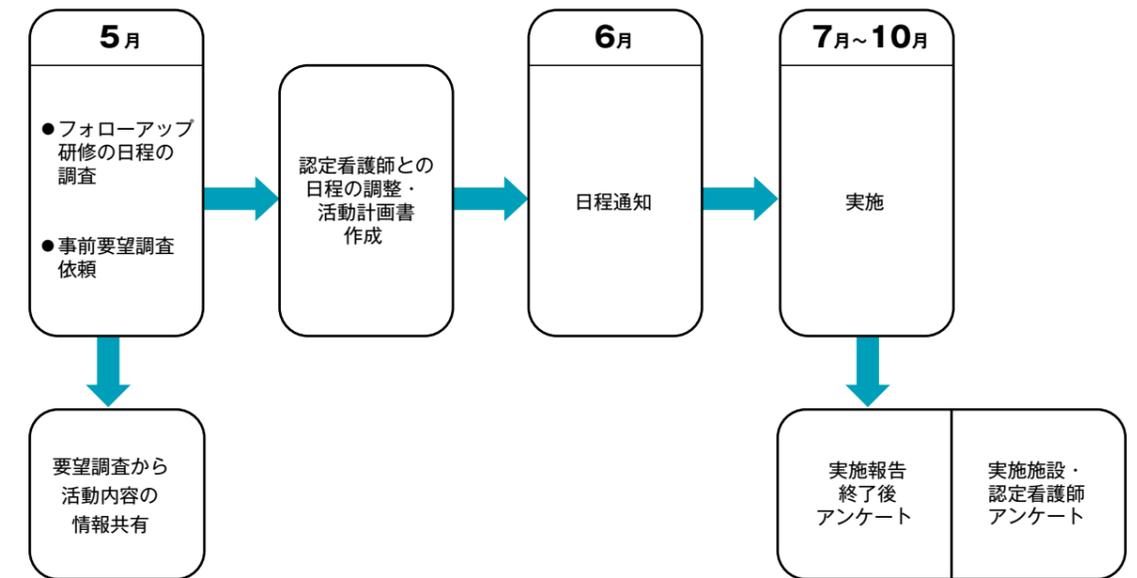
1) フォローアップ研修の概要

平成25年度から看護力向上支援事業を実施している経過において、事業参加医療機関等から、活動が終了した後も、認定看護師からの支援を継続して受け、実施した成果や新たな課題などについてアドバイスのコンサルテーション要望があった。また、認定看護師からも、自身の活動の評価をするため確認する機会づくりの要望があったことから、平成29年度から前年度に事業に参加した医療機関等を対象に、フォローアップ研修を開始し継続している。

(1) 対象：前年度事業に参加した医療機関等

(2) 目的：認定看護師が継続した支援をすることで支援した施設の看護ケアの質の維持向上を図る

【フォローアップ研修の流れ】



- ① 前年度事業に参加した医療機関等にフォローアップ研修実施の希望を確認し、要望調査を依頼（現在の状況、課題、助言してほしいこと、研修会の希望内容や研修日程、時間等）
- ② 認定看護師に要望調査の情報を提供し、日程調整
- ③ 日程調整後、認定看護師所属施設と看護職責任者、認定看護師へ依頼文書の送付
- ④ 認定看護師が実施計画書を作成
- ⑤ フォローアップ研修の実施
- ⑥ 研修会終了後のアンケートを実施、集計は協会で行う
- ⑦ 認定看護師が実施報告書を看護協会に報告
- ⑧ 県に報告書を送付

2)令和6年度医療機関における看護力向上支援事業 フォローアップ研修の実施

令和5年度事業参加施設	研修テーマ	分野	実施日	担当認定看護師	所属施設
福島南循環器病院	「DESIGN-R [®] 2020」について	皮膚・排泄ケア	8月2日	幕田 香	大原総合病院
たむら市民病院	「感染対策Q&A」 ～頂いた質問に対する返答～	感染管理	8月23日	根本文江	星総合病院
介護老人保健施設桔梗	個人防護用具の適切な選択および正しい着脱方法	感染管理	9月4日	薄井真理子	太田西ノ内病院
南東北プロヴィデンス	褥瘡ケアの8割はアセスメントが大切！ ～外用剤使用の考え方～	皮膚・排泄ケア	8月21日	七海陽子	総合南東北病院
白河病院	看護力向上支援を実施してみた強みと弱み	認知症看護	9月25日	小室真紀	白河厚生総合病院
福島県立南会津病院	意思決定支援、高齢者との関わりと社会資源の利用の仕方、多職種との関わり方	透析看護	10月17日	大星知佳	公立岩瀬病院
介護老人保健施設なごみ	ノロウイルス感染症の対応について(嘔吐物処理方法の演習含む)	感染管理	9月11日	一条和枝	会津医療センター 附属病院
渡辺病院	認知症看護 認知症者へのケアや対応について	認知症看護	10月3日	渡部貴美枝	南相馬市立総合病院
公立相馬総合病院	せん妄・BPSD症状出現時の対応と薬物療法	認知症看護	10月1日	佐川奈美子	福島赤十字病院
相馬中央病院	困っていませんか？糖尿病患者への関わり	糖尿病看護	10月23日	黒澤チエ	JCHO二本松病院
大町病院	摂食・嚥下のメカニズム	摂食・嚥下障害看護	10月17日	長谷川小百合	南相馬市立総合病院
ふたば医療センター 附属病院	摂食嚥下障害ケアを考えよう～安全な食事から一歩進めるか考えてみよう～	摂食・嚥下障害看護	8月23日	須藤るり	松尾病院

3)フォローアップ研修実施医療機関等のアンケート結果

令和5年度事業参加医療機関等へフォローアップ研修の実施

期間：研修会等の活動終了後

対象：事業参加医療機関等の担当者と受講者、認定看護師

(回答：12施設と12名の認定看護師)

①実施して良かったか(抜粋) 【全12医療機関等が「良かった」と回答】

- ・前年度の振り返りをしながら、嚥下のメカニズムについて再学習する機会となった。また、ミールラウンドを通して直接スタッフが助言を受けたことで、今後の援助につなげられる。
- ・認知症ケア加算の立ち上げに悩んでいたため、沢山経験をふまえた指導をいただき良かった。
- ・支援を受けた後、現場で実践し新たな悩みを認定看護師と振り返り承認されることで、自信につながったようだ。

②課題は改善できたか

- ・看護職員が全体的に同じ方向を向いて実践できるようになり看護の質が上がった。

- ・まだまだ課題はあるが、その中でも、対応力や薬剤使用のタイミングは理解できた。

③継続していくにはどうしたら良いか

- ・病棟師長と共に、「食べる」を支援できるスタッフ育成をしていきたい。
- ・リンクナースで継続的に勉強会を行い、ラウンドを行い、支援内容を基本とし現場と話し合いながらケア、実践につなげていく。得た知識から、研修会を開催し教育とともに新たな人材育成をしていく。

④フォローアップ研修についての意見・要望など

- ・人を動かす(スタッフ)は労力を使いますし、思い通りになるわけではないため、どう人材を動かすか、患者さんの気持ちによりそうにはなど勉強になりました。
- ・支援後の疑問や悩み、また自分達の活動がどうか評価してもらえるので、今後の方向性を確認でき、やりがいや動機づけになるためフォローアップ研修を実施して良かった。

4)認定看護師のアンケート結果

①研修を実施して良かったか(抜粋) 【11人が「良かった」、1人が「検討が必要」と回答】

- ・前回の振り返りと、指導した内容の実践状況が確認できた。
- ・指導した内容を院内で周知し、システム化しようとする取り組みが素晴らしかった。担当者は活動を広めようとする取り組みをしていたため、患者の回復にも改善がみられていた。記録も観察項目を意識した記録がされるようになった。

「検討が必要」のコメント

- ・日程や勉強会内容について連絡がなかなか来なくて困った。

②課題は改善できたか

- ・多職種における褥瘡に対する意識の高まりは感じた。ここが重要であるため、今後は段階的に課題に対する取り組みを行っていただきたい。
- ・抑制カンファレンスの必要性が徐々に浸透しており、少人数での相談が実施され、課題が改善されていると感じた。

③今後、継続していくためにはどのようにすればよいか

- ・基礎知識を身につけて、応用でアセスメントを繰り返すことで身につくことだとも思います。キーパーソンが繰り返し声かけ指導を行うことが大切だ。
- ・多職種で関わることで患者の利益につながるという視点を持ち続けることだと思う。今できる最大の関わりをどうしたらできるかと考えることが必要である。

④意見等について

- ・昨年度の活動でどれだけ皆様に伝わったのかと、とても心配であった。しかし今回のフォローアップ研修で皆様の取り組みや患者が改善した報告をいただきとても安心した。
- ・フォローアップ研修があることで、支援を「やりっぱなし」にせず、1年後にまた行かせていただくことで、自分が行った支援がその病院にフィットした実現可能なものであったかの評価ができるので、とてもありがたいと思った。

平成25年度から令和6年度までの支援分野一覧【12分野、計102件】

年度	件数	支 援 分 野											
		救急看護	皮膚・排泄ケア	感染管理	摂食・嚥下障害	認知症看護	脳卒中リハビリテーション看護	慢性心不全看護	がん化学療法看護	透析看護、慢性腎不全看護	慢性呼吸器疾患看護	糖尿病看護	精神科看護
令和6年	13		3	3		2	1			1			3
令和5年	14		2	3	2	4				1	1	1	
令和4年	12		2	5	2	1		1	1				
令和3年	9		3	3	1	1			1				
令和2年	7		2	3	1	1							
令和元年	8	1	1	2	3	1							
平成30年	10		2		4	4							
平成29年	8		1		4	3							
平成28年	7	1	3	1	1	1							
平成27年	6		3		2	1							
平成26年	4			2	2								
平成25年	4		1	1	2								
合計	102	2	23	23	24	19	1	1	1	3	1	1	3

平成25年度から令和6年度の事業対象施設

年度	事業参加対象の医療機関等・受託事業
平成25年度～平成26年度	福島県より「医療機関等における看護力向上支援業務」を受託 相双地区の医療機関
平成27年度	福島県全域の病床数100床以上200床未満の病院
平成28年度	福島県全域の病床数50床以上200床未満の病院 県北地区・会津地・区の介護老人保健施設
平成29年度	福島県全域の病床数50床以上200床未満の病院 福島県全域の介護老人保健施設 前年度事業参加対象施設にフォローアップ研修(1回)
平成30年度	福島県全域の病床数20床以上200床未満の病院 福島県全域の介護老人保健施設 前年度事業参加対象施設にフォローアップ研修(1回)
令和元年度～令和2年度	福島県全域の病床数20床以上200床未満の病院と単科の精神科病院 福島県全域の介護老人保健施設 前年度事業参加対象施設にフォローアップ研修(1回)
令和3年度	福島県全域の病床数20床以上200床未満の病院と 病床数不問で単科の精神科病院 福島県全域の介護老人保健施設 前年度事業参加対象施設にフォローアップ研修(1回)
令和4年度～令和5年度	福島県より「医療機関等における看護力向上・感染管理強化のための専門人材派遣」・「浜通り専門看護人材派遣」の2事業を受託 事業参加対象は、前年度同様 前年度事業参加対象施設にフォローアップ研修(1回)
令和6年度	福島県より「医療機関等における看護力向上・感染管理強化のための専門人材派遣」・「浜通り専門看護人材派遣」の2事業を受託 「精神科看護」が要望可能な領域として追加 事業参加対象は、前年度同様 前年度事業参加対象施設にフォローアップ研修(1回)

9 まとめ

事業評価について

1)実施後の施設評価

目標達成について、5施設が達成し、8施設がほぼ達成できたという結果であった。

受講対象者を限定した医療機関等は、コアメンバーを中心に勤務調整などに配慮しながらより専門的に学んでいた。院内研修として取り組んだ医療機関等は、全職員を対象に知識や情報の共有をする機会となった。

研修会等の実施においては、各医療機関等の感染対策を遵守し実践していた。初回の訪問で目標の再確認や修正を行い、研修会の演題や活動の内容は、目標を達成できるように計画的に実践されていた。認定看護師は、医療機関等の訪問時において、事前に示された支援要望やラウンド時の突発的なコンサルテーション依頼があった場合にも、柔軟に対応する様子が見受けられた。また、基礎知識の底上げのために、受講前後の理解度の確認を小テストで行うなど、到達度を数値で可視化していた。さらに、独自のアンケートを活用して次の活動日に活かすなど、問題点や課題を整理し取り組んでいた。このように様々な工夫がなされ、受講者の98%が「研修会の内容は役立つ」、97%が「今後の業務に活用できる」の回答が、事業評価アンケート結果より得られている。

新たに精神科看護の分野における活動が始まり、3医療機関等において実施した。共通していたことは、患者の生活を豊かなものにするため、自らの認識や行動をかえていく大切さを伝え、患者に向き合っているかと問う機会をつくっていたことである。看護職の役割である「療養上の世話」を担う者への気づきと、その強化が求められ、あらためて理解を促されていた。

医療機関等の担当者と認定看護師は、それぞれの状況に合わせ活動日を調整し、5回の活動日程を全13施設が実施でき、成果に結び付いた。専門分野の知識や技術を持つ認定看護師の支援を直接受けることで、看護の力を改めて感じ、認定看護師を目指したいという現場の声や、組織として認定看護師の育成を決定した施設もある。各医療機関等は、認定看護師から自施設における看護実践の現状の評価を受け、助言や研修会等を通し、看護の質向上、または改善のための実践を根拠のもとに実施できたことは、自信につながった。また、医療機関等全体で事業に取り組もうとする多職種との協力も大きく「目標に向けてケアを継続していく」意欲へつながっている。事務局は、今後も双方が連携できるように支援していく。

2)認定看護師の評価

認定看護師は、訪問時の受講者の様子や、各研修会アンケート結果および事業評価アンケート結果から、認定看護師としての役割を果たすことができた全員が感じている。また、事業に参加した医療機関等の管理者からは、認定看護師の知識・根拠を伝達により、ケアに対する意識づけを行うことができ、職員の明らかな行動変容につながったと評価をいただいている。認定看護師は、担当の医療機関等における職員の学ぶ姿勢に刺激を受け、認定看護師としてどのように介入していくかを検討し、自己研鑽をしながら役割を再認識することができていた。受講者からの声が認定看護師自身のやりがいを引き出し、モチベーションのアップにつながっている。

認定看護師と事務局担当者の情報交換は、認定看護師の勤務状況を考慮し主にメールを使用した。事業の実施と並行し、紙面での報告書や研修会資料等送付の慣例については、認定看護師に意見を聞きメールによる報告へと整備した。問題や疑問発生時の情報共有、解決や相談についてはメールを中心に随時行うことで、タイムリーに対応できた。

3)アンケート実施方法の評価、提出物等の送付関係について

Google フォームを使用した回答率は67%であること、アンケートに回答することへの負担感の軽減、各医療機関等の担当者と各認定看護師へ、回答結果を速やかに情報共有できるツールであることから、今後もこのアンケート回答方法を継続していく。また、認定看護師から各研修会後アンケートの二次元コードを各研修会資料に表示してはどうかと提案があり、今後活用したい。

現在、事業への参加申し込みは、申込用紙をファクシミリ送付することとなっており、事務局は回収した申込用紙を集計し、事業参加の意向を把握している。今後は、誤った転記の可能性低減や保存のしやすさから、福島県看護協会ホームページに事業参加の申し込み入力フォームを設定する等、医療機関等が容易に申し込める方法を検討したい。事業に参加する医療機関等と担当する認定看護師との情報提供や、提出物等の送付方法をより簡便に且つ効率を良くするなどの整備を継続していく。

フォローアップ研修について

前年度に事業に参加した医療機関等のうち、希望があった12施設においてフォローアップ研修を実施した。全医療機関等が「実施して良かった」と回答している。前年度からの活動や実践の振り返りができ、認定看護師から実践内容の評価を受け、研修会においては新しい情報を得ることができていた。また、医療機関等によっては、支援内容を継続することへの課題や困難を感じていた。今回、認定看護師が支援に入ることをきっかけに改めて相談し、助言や元気をもらうなど、新たに取り組んでいく機会として有意義であった。

認定看護師も11人が「実施して良かった」と回答した。自身も活動の振り返りと評価のために貴重な機会であり、同じ地域の看護の質向上につながるきっかけとして、今回の縁を大切に継続して相談を受けていきたいと感じていた。一方、1件「検討が必要」で、理由は「(研修会は良かったが)日程や勉強会内容について連絡がなかなか来なくて困った」との回答があり、事前の連絡調整に困難を感じていた。事務局からの連絡が迷惑メールに振り分けられていたとのことから、事務局は、きめ細やかに状況確認するなど一層努めていく。

各医療機関等において、目標のもとに取り組んだ実践の成果と課題に対し、自施設の特徴に合わせた取り組みの継続を期待し、次年度も年1回の実施としたい。

課題

- ・事業の周知と参加数を増やすための活動
- ・支援を要望する医療機関等への情報収集方法の整備
- ・医療機関等と担当する認定看護師との情報共有方法・提出物送付方法の整備

令和6年度
福島県の医療機関における
看護力向上支援事業報告書

福島県・公益社団法人福島県看護協会
〒963-8871 福島県郡山市本町一丁目20番24号
TEL024-934-0512

令和7年3月発行